

第3次長野県スポーツ推進計画(案)【概要版】

計画策定の趣旨

- ・ 新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、多大な悪影響を及ぼした一方で、スポーツが日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識。
- ・ スポーツの持つ力や価値を活用し更に高めることにより、県民一人ひとりの生活や心がより豊かになるといった「ウェルビーイング」の実現を目指し、今後5年間にわたり本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たなスポーツ推進計画を策定。

計画の位置付け

- ・ スポーツ基本法第10条第1項の規定による「地方スポーツ推進計画」
- ・ 「長野県総合5か年計画」及び「第4次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画

計画期間

令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

基本理念

スポーツの力で切り拓く長野県の未来

基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- ・ 「主な現状と課題」
 - ・ 子どもの体力の低下傾向
 - ・ 運動をする子どもとしない子どもの二極化
 - ・ 運動嫌いを生まないための体育授業の工夫
 - ・ 公立中学校等の学校部活動の地域クラブ活動への移行
 - ・ 子どもがスポーツに参加しやすい地域のスポーツ環境の整備

- ・ 「主な5年後の目指す姿」
 - ・ 長野県版運動プログラムが普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもが増加している。
 - ・ 効果的なICTの活用により、それぞれのニーズに応じて、運動の技能差にかかわらずに体育授業の充実が実現されている。
 - ・ 地域の持続可能な多様なスポーツ環境が整備され、子どもたちの多様な体験機会が確保されている。

「主な施策の展開」

- ・ 幼児期からの運動遊びの推進
- ・ 効果的なICTの活用による個別最適な体育・保健授業の推進
- ・ 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、地域を拠点としたスポーツ環境づくり及び指導者の確保や質の向上を図るための取組の支援
- ・ 障がいのある子どもたちの運動機会の充実、理解の促進

「主な数値目標」

指標名	現状	目標 (R9年度)
体力合計点	49.0点 (R4年度)	52点
運動が好きな子どもの割合 (中学生女子)	77.2% (R4年度)	80%
1週間の運動時間が60分未満の子どもの割合 (中学生女子)	18.2% (R4年度)	17%以下

基本目標2 生涯を通じてスポーツ機会の充実

- ・ 「主な現状と課題」
 - ・ 習慣的に運動・スポーツをする成人は約6割
 - ・ コロナ禍の影響等により、直接スポーツ観戦率・スポーツボランティア参加率は共に1割未満に低下
 - ・ 地域のスポーツクラブ(総合型地域スポーツ・スポーツ少年団等)の活性化
 - ・ 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進(共生社会の実現)

- ・ 「主な5年後の目指す姿」
 - ・ 多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族・仲間、多世代間等の交流を通じ、スポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
 - ・ 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。
 - ・ 障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

「主な施策の展開」

- ・ 「する」「みる」にさえる「スポーツへの参画人口の拡大と定着化
- ・ スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブとの連携強化
- ・ 誰もが身近で安全に利用しやすいスポーツ施設の充実・維持管理
- ・ スポーツを通じた共生社会づくりの推進

「主な数値目標」

指標名	現状	目標 (R9年度)
運動・スポーツ実施率(成人の週1日以上)	60.8% (R3年度)	70%
直接入スポーツ観戦率	8.0% (R3年度)	20%
スポーツボランティア参加率	4.2% (R3年度)	15%

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

- ・ 「主な現状と課題」
 - ・ 国民体育大会における本大会での成績の低迷
 - ・ 専門的な医学サポート体制の整備
 - ・ 先端技術を活用した効果的な競技力向上対策
 - ・ 熟練した指導者の高齢化、女性指導者の不足
 - ・ アスリートの経験・技術の活用

- ・ 「主な5年後の目指す姿」
 - ・ 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指す。本県の競技力が向上している。
 - ・ 本県のトップアスリートが県内のどこでも医学サポートを受けられ、最先端の科学的な強化指導が受けられる環境が整備されるとともに、スポーツに親しむ一般県民にも医学サポートが浸透し始めている。
 - ・ 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。

「主な施策の展開」

- ・ 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けた競技力向上対策
- ・ 先端技術を活用した競技力向上対策
- ・ 県内どこでも医学的サポートを受けられる「長野県スポーツ医学ネットワーク」の構築
- ・ アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業」の強化

「主な数値目標」

指標名	現状	目標 (R9年度)
国スポ天皇杯(男女総合)順位	15位 (R4年)	5位以上
全国大会におけるジュニア入賞数(国スポ(少年)、インターハイ及び全国中学校体育大会の入賞数)	254人・団体 (R4年度)	300人・団体以上

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

- ・ 「主な現状と課題」
 - ・ スポーツ大会・合宿等を通じて地域活性化
 - ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運等を活用した人々の交流促進
 - ・ プロスポーツチームと連携した地域活性化等
 - ・ コロナ禍を経験し、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性を再認識

「主な5年後の目指す姿」

- ・ 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。
- ・ プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。
- ・ フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。

「主な施策の展開」

- ・ 県スポーツコミッションによる大会やスポーツ合宿の誘致促進による地域活性化
- ・ 山岳スポーツやウィンタースポーツなど本県ならではのスポーツの魅力の発信
- ・ 県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興
- ・ 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進

行こう。それぞれの頂へ。



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

第3次 長野県スポーツ推進計画（案）

— スポーツの力で切り拓く長野県の未来 —

令和5年(2023年)3月

長野県教育委員会

目次

はじめに	1
計画策定の趣旨	
計画の位置付け	
計画期間	
第1章 現状と課題	2
1.1 「子どもの運動・スポーツ機会の充実」の現状と課題	2
1.2 「生涯を通じたスポーツ機会の充実」の現状と課題	6
1.3 「全国や世界で活躍する選手の育成」の現状と課題	10
1.4 「スポーツの持つ力の多面的活用」の現状と課題	13
第2章 計画の基本的な考え方	14
2.1 基本理念	
2.2 スポーツの力・価値	
第3章 施策の展開	15
3.1 施策の展開	
3.2 施策の展開の体系表	
3.3 具体的な施策の展開	
基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実	17
1 幼児期からの運動の習慣化	
2 学校体育・運動部活動等の充実	
3 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実	
基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実	24
1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	
2 地域のスポーツ環境の整備	
基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成	30
1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上	
2 スポーツ界の好循環の創出	
基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用	35
1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化	
2 スポーツを通じた人々の交流促進	
3 プロスポーツとの連携・協働の推進	
4 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現	
<用語解説>	38
<計画策定までの経過・長野県スポーツ推進審議会委員名簿>	42

本文中に*印のある用語は、巻末（38 ページ以降）に解説を掲載しています。

はじめに

計画策定の趣旨

本県では、平成30年3月に策定した「第2次長野県スポーツ推進計画」(H30～R4)を指針として、子どもの体力向上、ライフスタイルや価値観に応じた「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進、2028年に本県で開催する「第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会」(信州やまなみ国スポ・全障スポ)に向けた競技力の向上とその定着、スポーツによる地域経済の活性化など、様々な施策を通して「スポーツを通じた元気な長野県づくり」に取り組んできました。

第2次計画期間中には様々な社会状況の変化がありました。特に、令和2年から急速に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、体力の低下やストレスの増加、スポーツを核にした地域における交流の不足など、我々の日常生活に多大な悪影響を及ぼしました。一方で、その反射的な効果として、スポーツには、日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識することとなりました。

自発的なスポーツへの参画を通じて「楽しさ」や「喜び」を得ることは、県民一人ひとりの生活や心をより豊かにするといった「ウェルビーイング*」の実現につながるものであります。このような、スポーツの持つ力や価値を發揮し更に高めていくために、今後5年間において、本県が推進していくスポーツの施策を明らかにするべく、新たに「第3次長野県スポーツ推進計画」を策定しました。

計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項において、国のスポーツ基本計画(第3期スポーツ基本計画)を参酌してその地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」です。

また、「長野県総合5か年計画」及び「第4次長野県教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画として位置付け、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策を定めたスポーツ推進計画です。

なお、第2次計画は、「第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会」の本県開催が10年後に内々定したことを受け、両大会の開催に向けて「10年後の目指す姿を見据えた前半5年間の計画」として策定したことから、本計画は、第2次計画で設定した目指す姿や基本目標等をベースとしたうえで、社会状況の変化や新たな課題に対応し、両大会終了後のスポーツ振興も見据えた計画としました。

計画期間

令和5年度(2023年度)を初年度とし、令和9年度(2027年度)を目標年度とする5年間を対象とします。

第1章 現状と課題

1.1 「子どもの運動・スポーツ機会の充実」の現状と課題

1.1.1 これまでの取組状況

【第2次計画での主な取組】

- ・ 幼児期からの運動遊びの推進
- ・ 少子化等を背景とした合同部活や地域スポーツ団体との連携など多様な運動部活動の推進
- ・ 特に運動時間の少ない中学生女子を対象とした授業改善や「ゆる部活*」等の導入支援
- ・ 多様なニーズのある子どもの受け皿となる地域のスポーツクラブとの連携

【第2次計画の達成目標の状況】

指標名	単位	基準値 (H29年度)	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	目標値 (R4年度)	
			目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	実績値		
体力合計点* (小中男女合計平均)	点	50.4	50.8	51.0	51.1	50.4	51.4	調査中止	51.7	49.5	49.0	52点	
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合(中学生女子)	%	78.7	79.2	78.9	79.4	79.1	79.6		79.8	75.4	77.2	80%	
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60分未満の子ども割合	小学生男子	%	7.9	7.6	8.0	7.2	8.4		6.8	6.4	8.6	8.9	6%以下
	小学生女子	%	16.4	15.2	16.3	13.9	16.8		12.6	11.3	15.6	16.7	10%以下
	中学生男子	%	7.3	7.2	6.9	6.9	8.4		6.6	6.3	8.2	8.1	6%以下
中学生女子	%	23.6	22.8	22.6	22.1	24.1	21.4	20.7	19.4	18.2	20%以下		

※R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止

1.1.2 主な課題

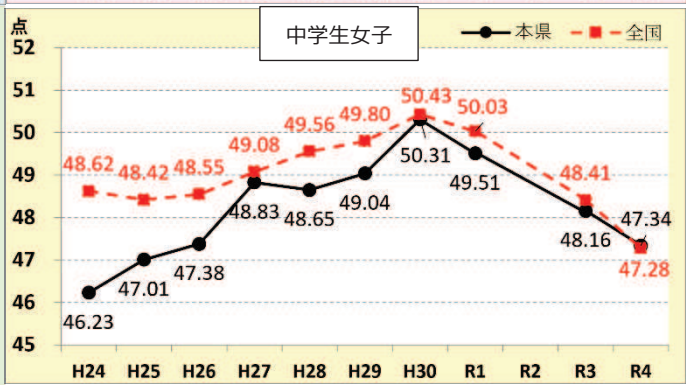
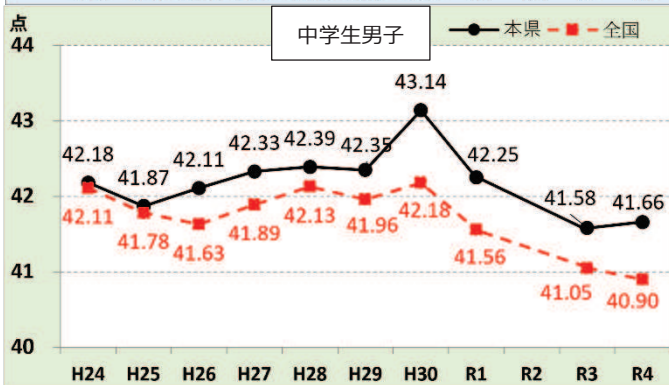
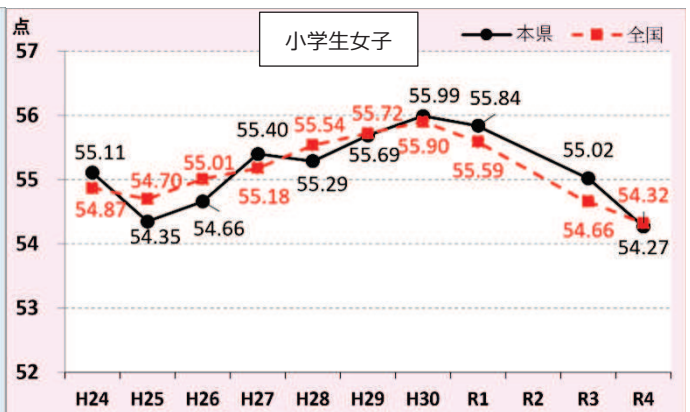
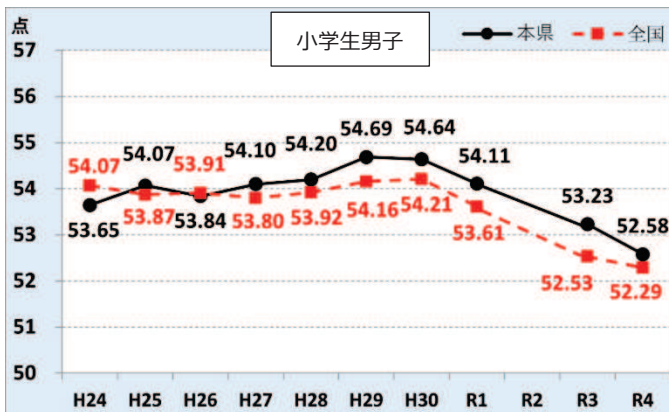
○ 子どもの体力向上

近年、小・中学校男女の体力合計点は全国的に低下しており、本県でも同様の傾向にあります。体力は人間の活動の源であり、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、豊かな人間性や自ら学び自ら考える力といった「生きる力」の重要な要素となるものであることから、子どもが自ら進んで動きたくなるような取組や環境整備等により、本県の子どもの体力向上を継続的に図っていく必要があります。

○ 運動をする子どもとしない子どもの二極化

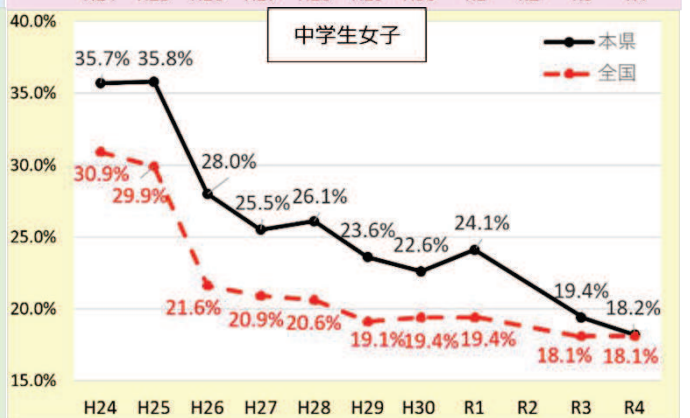
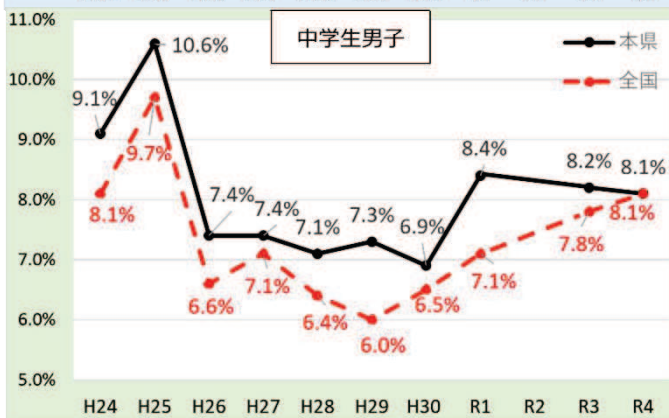
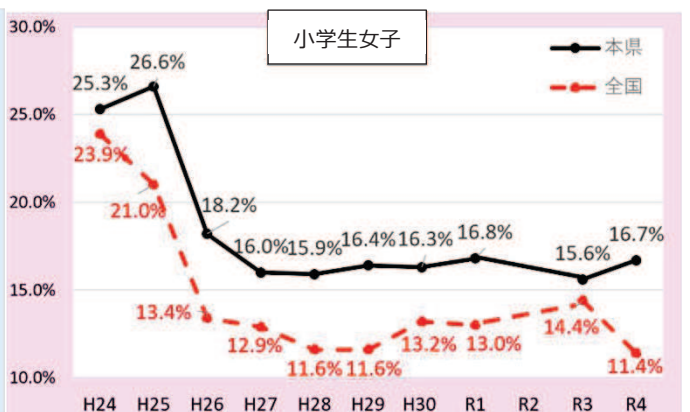
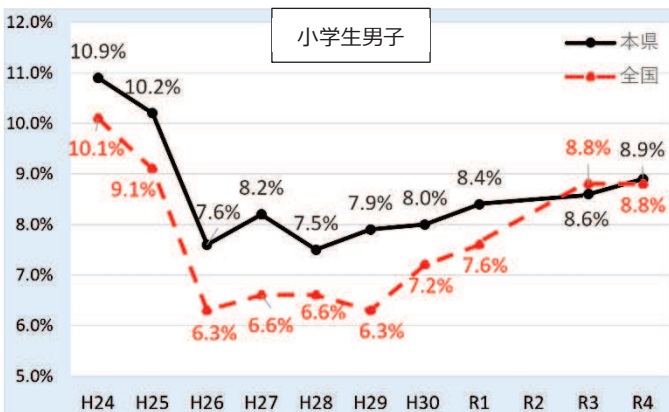
本県の小中学生の体育の授業時間を除いた総運動時間は、全国平均と比べると低い水準にあります。特に中学生の女子は、近年改善の傾向は見られるものの、依然として約2割が1週間にほとんど運動をしていない状況にあるなど、運動をする子どもとしない子どもの二極化が顕著となっています。

体力合計点の推移



出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）

1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の推移

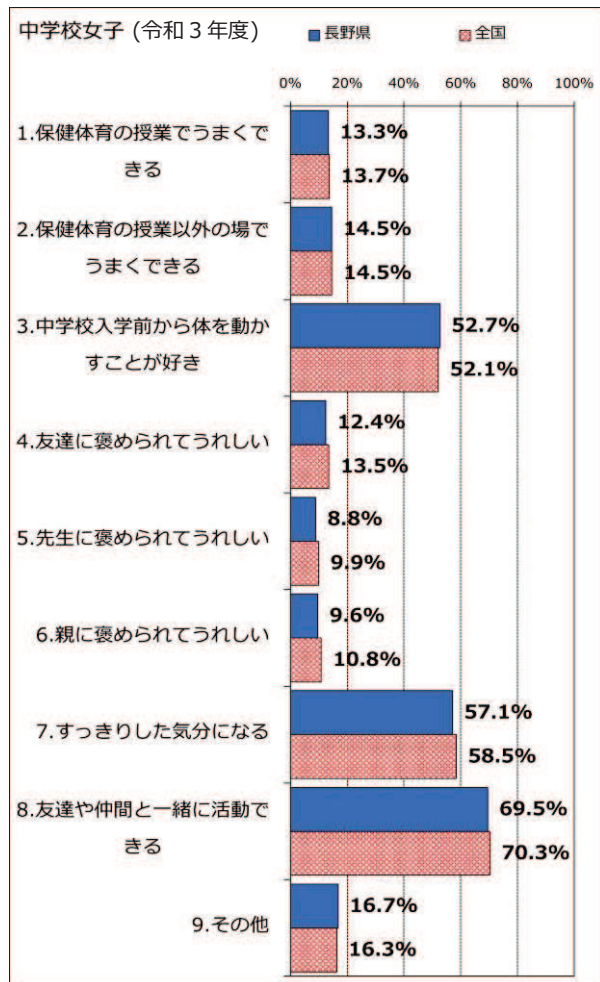


出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）

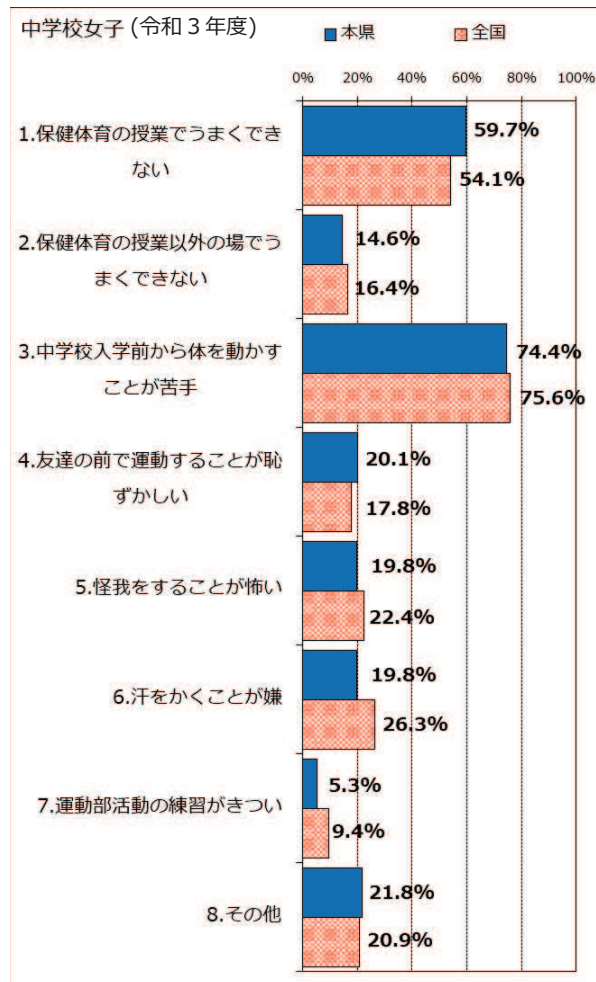
○ **運動嫌いを生まないための工夫**

児童生徒の運動が嫌いな理由の多くは「保健体育の授業でうまくできないから」であり、「上手にやるやり方」に特化することなく、「仲間と共に運動する心地よさ」を味わえる授業を推進し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することが求められています。

運動が好きな理由（中学生女子）



運動が嫌いな理由（中学生女子）



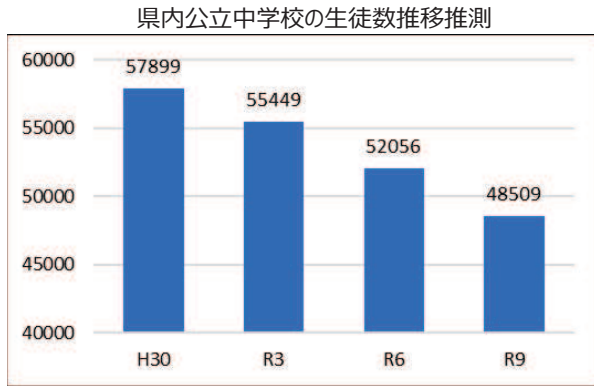
出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）

○ **公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行等**

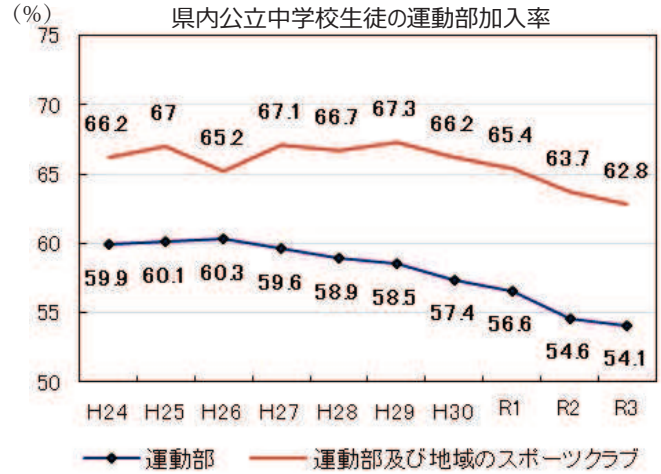
少子化の進展、専門性のある指導者の不足、部活動指導による教員の長時間勤務の問題等により、今まで学校が主体として担ってきた部活動の形態を見直し、地域が主体となる新たなスポーツ環境の整備を目指すことが必要となっています。

○ **子どもの地域スポーツ環境の整備**

総合型地域スポーツクラブ*やスポーツ少年団*等、地域におけるスポーツ活動を充実させ、幼児期の子どもや運動を得意としない子ども、障がいのある子ども等を含めた多様な子どもが参加しやすい環境を整備することが求められています。



出典：長野県中学校体育連盟調



出典：県スポーツ課調

県内公立中学校運動部顧問職員の競技経験（令和3年度）

担当競技の経験あり	担当競技の経験なし		
	担当競技以外の経験あり	運動経験なし	計
39%	46%	15%	<u>61%</u>

出典：県スポーツ課調

○ 運動・スポーツをすることの意義の啓発

運動は単に「体力」や「技術力」を向上させるためだけに必要なものではなく、散策や徒歩通学などの軽度の運動も、質の良い睡眠、美味しい食事、美容や健康増進等に大きく関係していることを学び、運動やスポーツをすることが大切であることを実感できる健康教育の充実を図る必要があります。

○ 障がいのある子どものスポーツ環境の整備（共生社会の実現）

障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流等により、障がいのある子どもとない子どもと一緒に運動する機会をより一層充実させるとともに、障がい者スポーツに対する理解の促進を図る必要があります。

障がい者スポーツ（パラスポーツ）に関する意識調査（令和元年度）

質問項目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない
1 パラスポーツは障がいの有無や年齢、性別などを問わず、みんなで楽しみながら行うことができる	29.9%	39.1%	25.0%	3.4%	2.6%
2 パラスポーツの普及は社会的問題（施設のバリアフリー化、平等・公平な社会の実現など）の解決につながる	24.4%	41.6%	28.1%	3.4%	2.5%
3 パラスポーツを体験することによって、障がいのある人に対する理解が深まる	28.9%	41.4%	24.2%	3.0%	2.5%

○ 感染症対策とスポーツ活動の両立

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校体育や運動部活動等のスポーツ活動が大きな制限を受けましたが、このような状況下においても、ICTの活用等により、感染症対策を講じた上でスポーツ活動を継続していくための工夫が求められています。

1.2 「生涯を通じたスポーツ機会の充実」の現状と課題

1.2.1 これまでの取組状況

【第2次計画での主な取組】

- ・「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と定着化
- ・スポーツ推進委員*や、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブの連携
- ・県立武道館*を核とした武道振興
- ・地域のスポーツクラブと連携した障がい者スポーツの振興

【第2次計画の達成目標の状況】

指標名	単位	基準値 (H29年度)	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		目標値 (R4年度)
			目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	
運動・スポーツ実施率 (成人の週1日以上)	%	48.1	52.4	56.3	55.6	57.1	58.1	57.3	61.9	60.8	65.0
直接スポーツ観戦率	%	13.0	13.7	11.7	14.0	8.9	14.4	7.7	14.7	8.0	15.0
スポーツボランティア参加率	%	8.2	8.4	5.2	8.8	5.5	9.2	4.4	9.6	4.2	10.0
地域のスポーツクラブ (※)への加入率	%	9.9	11.0	10.1	12.0	9.6	13.0	9.2	14.0	8.7	15.0
障がいのある人が参加する プログラムを行っている 総合型地域スポーツ クラブの割合	%	13.2	20.0	20.9	27.5	21.2	35.0	29.9	42.5	26.9	50.0

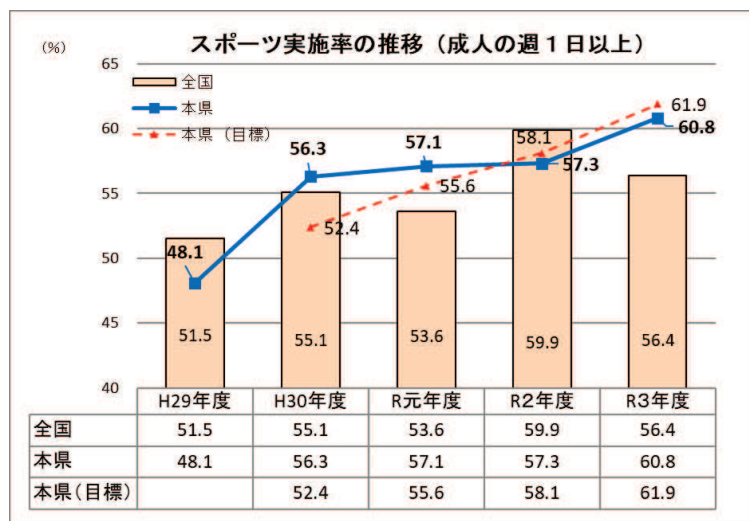
※「地域のスポーツクラブ」・・・総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、各種のスポーツクラブ（学校の運動部活動を除く）

1.2.2 主な課題

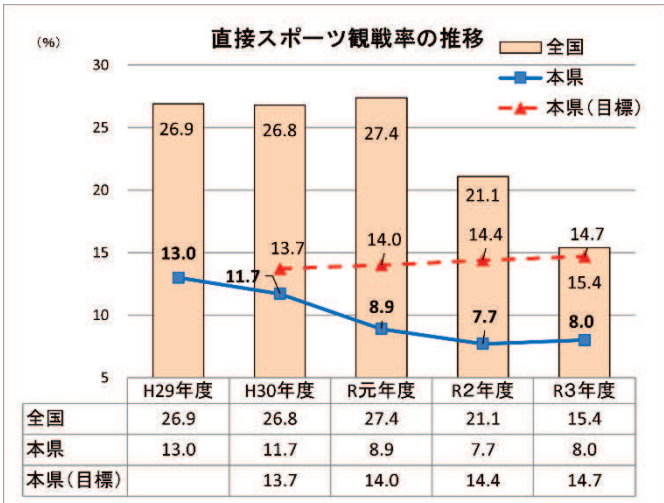
○ スポーツ参画人口の拡大（「する」「みる」「ささえる」スポーツ）

成人の週1日以上のスポーツ実施率（「する」スポーツ）は、平成29年度以降上昇傾向にあり、令和3年度には初めて6割を超えました。

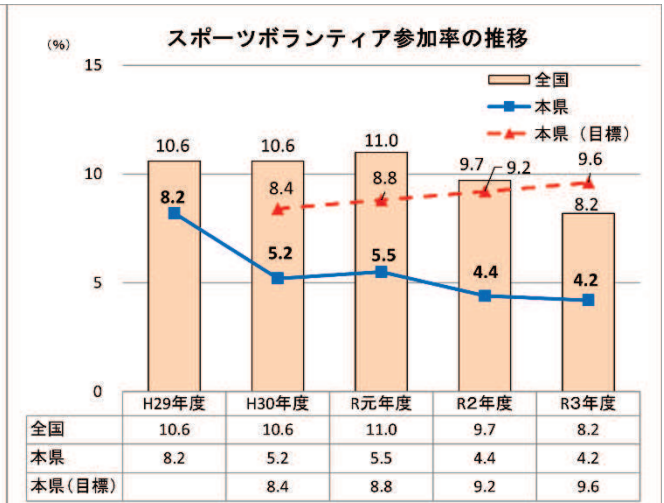
一方で、直接スポーツ観戦率（「みる」スポーツ）及びスポーツボランティア参加率（「ささえる」スポーツ）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により、共に1割を下回っている状況です。



出典：県政モニターアンケート



出典：県政モニターアンケート



出典：県政モニターアンケート

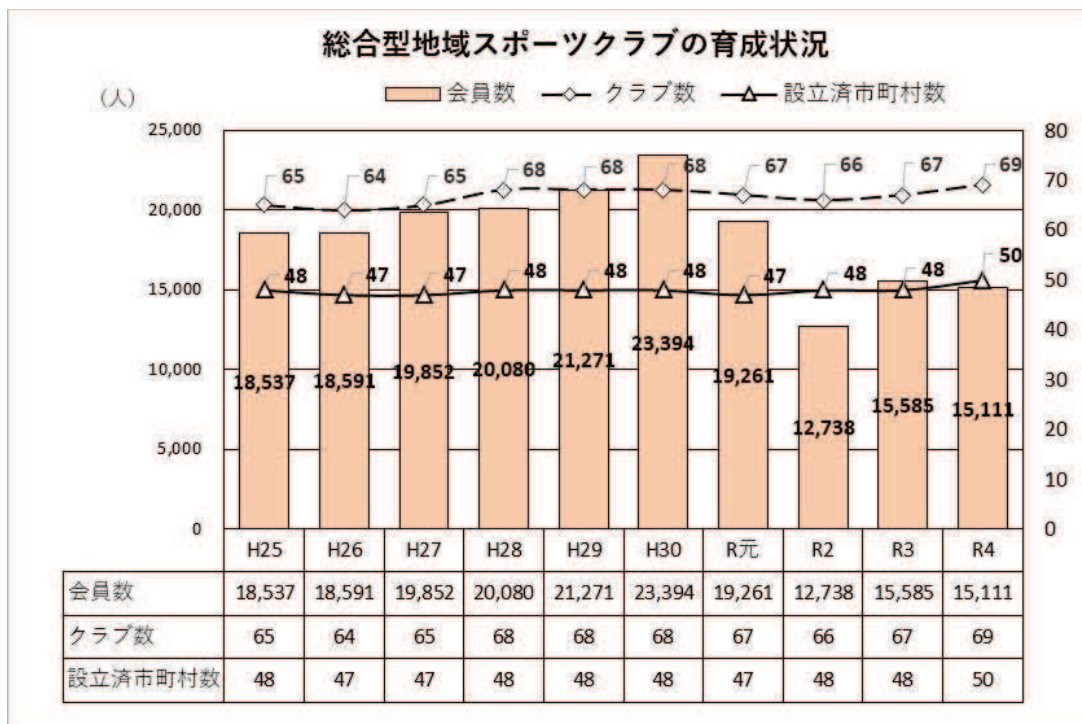
○ 身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備

誰もが気軽にスポーツに参加できる機会を充実させるため、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブなどの地域のスポーツクラブと連携して、スポーツ機会の創出や周知を促進する必要があります。

○ 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の活性化

あらゆる世代のスポーツ機会の確保、学校部活動の地域クラブ活動への移行など、地域のスポーツクラブが期待される役割が大きくなっています。

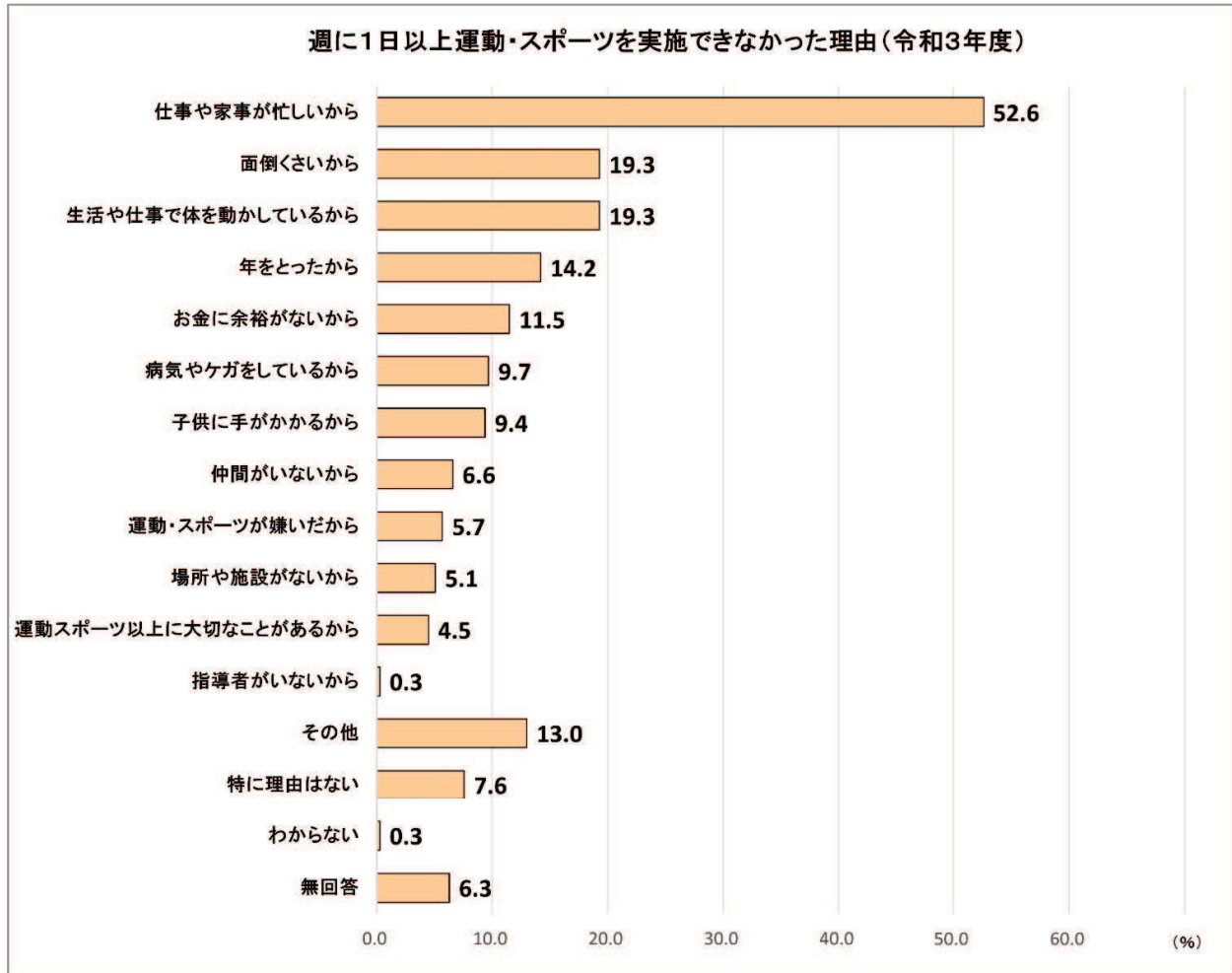
一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、総合型地域スポーツクラブの会員数は令和2年度に大きく減少しました。各関係団体が連携し、地域スポーツ振興の担い手となる地域のスポーツクラブの活動を活性化させる必要があります。



出典：県スポーツ課調

○ **働く世代・子育て世代のスポーツ参加**

運動・スポーツを週に1日以上できなかった理由は「仕事や家事が忙しいから」が最も多くなっており、働く世代や子育て世代がスポーツに参加しやすくなるような工夫が必要です。



出典：県政モニターアンケート

○ **誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備（ユニバーサルデザイン、適切な維持管理、施設の長寿命化）**

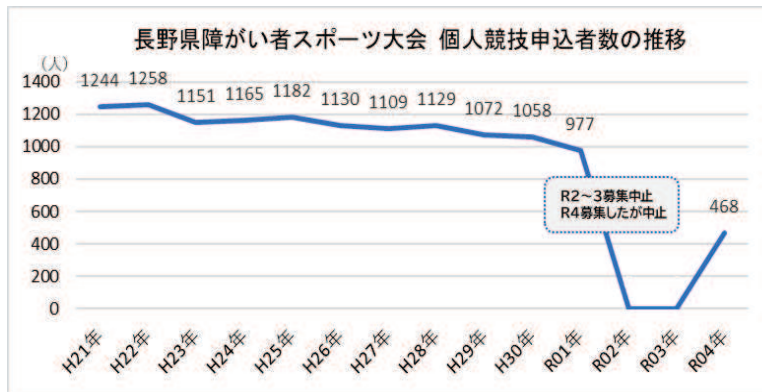
スポーツ施設や公園施設などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められていることから、必要な改修を計画的に進めていくとともに、誰もが安心してスポーツ活動に取り組めるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化を促進していく必要があります。



令和2年3月に開館した長野県立武道館（佐久市）

○ 障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進（共生社会の実現）

障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会等を通じて、障がい者スポーツの参加機会の拡大や理解の促進を図り、全ての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、支え合い、活かし合う共生社会づくりに取り組む必要があります。



ボッチャ競技大会「パラウェーブ NAGANO カップ」の様子

○ 感染症対策等の制限下におけるスポーツ活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、一時はスポーツ活動が大きく制限を受けましたが、スポーツ活動は日々の生活や社会に活力を与える重要な要素であることから、スポーツ施設における国や県の対応方針等に基づいた対策の徹底や、リモート等を活用したスポーツの場の提供等により、スポーツ活動を維持していく必要があります。



リモートを活用したトレーニングの様子（SWAN プロジェクト）

1.3 「全国や世界で活躍する選手の育成」の現状と課題

1.3.1 これまでの取組状況

【第2次計画での主な取組】

- ・2028年の国スポ開催を見据え、関係団体で構成する「競技力向上対策本部*」の設置と「競技力向上基本計画*」の策定
- ・指導者の育成と確保対策の強化
- ・ジュニア選手の発掘・育成、女性アスリート支援、異種競技間の交流
- ・長野県で育った選手が指導者となり、将来の本県のスポーツ振興を支える好循環を創出
- ・アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業*」の強化

【第2次計画の達成目標の状況】

指標名	単位	基準値 (H29年度)	H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		R4年度	目標値 (R4年度)	
			目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	目安値	実績値	実績値		
国民体育大会	男女総合(天皇杯)順位	位	18	15	13	13	16	13	R5に延期	12	中止	15	10位以内
	冬季大会順位	位	1	1	1	1	2	1	2	1	2	2	1位
	本大会順位	位	45	38	32	30	35	25	R5に延期	21	中止	34	20位台
国民体育大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数	人・団体	218人・団体	220	256	227	215	234	(109) ※1	242	(227) ※2	254	250人・団体	
北京冬季オリンピック(2022年)でSWAN*からメダリスト輩出	人	-	-	-	-	-	-	-	-	0 (出場3人)	-	1人以上	
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)	競技	0	-	0	1	0	2	0 (R5に延期)	3	0 (本大会中止)	1	4競技	

※1冬季国体、冬季IHのみ ※2夏季国体除く

1.3.2 主な課題

○ 選手の育成・強化体制の整備

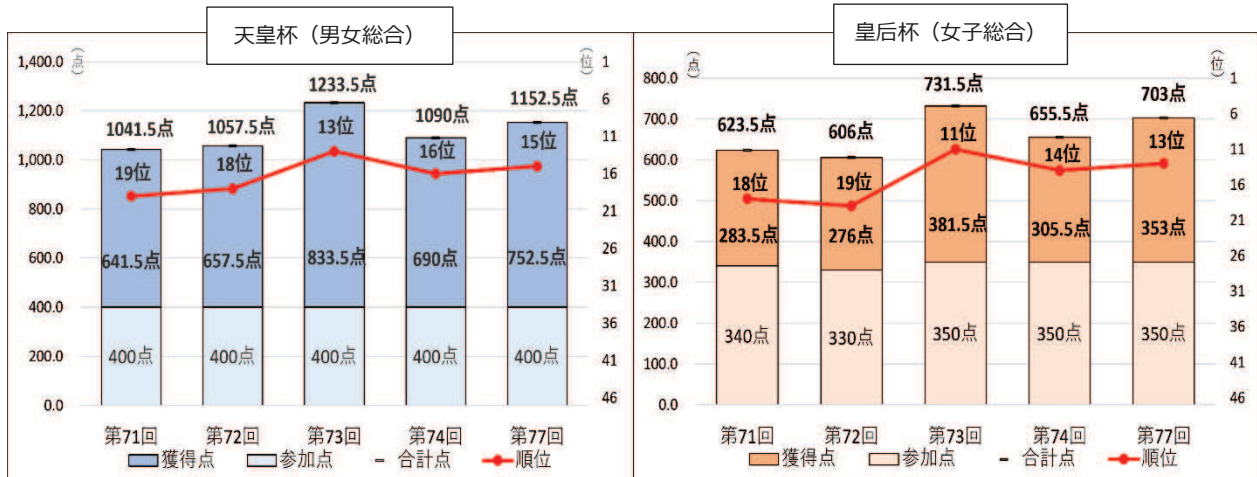
本県の国民体育大会での成績は、冬季国体ではトップレベルを維持していますが、本大会では低迷が続いており、2028年に本県で開催する信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、より一層、選手の育成・強化に取り組む必要があります。

また、全国障害者スポーツ大会の団体競技の中には、県内にチームが存在せず、現在も大会への地区予選に出場ができない種目があります。2028年の信州やまなみ全障スポに向け、本県選手が活躍できるよう、未設置の競技団体設立のための支援や競技力向上のため選手の発掘・育成に取り組む必要があります。

2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて

- ・ 本県の第77回大会（令和4年）の成績は、天皇杯（男女総合成績）は15位、皇后杯（女子総合成績）は13位と、2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けて、徐々に成績が上がりつつあります。
- ・ 直近5大会の種別得点推移を見ると、少年男子・女子の獲得点はおおよそ右肩上がりで見られますが、成年男子・女子はやや伸び悩んでいることが見て取れます。
- ・ 信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、成年男子・女子のさらなる強化が必要となります。

▼天皇杯・皇后杯比較



▼種別得点推移



○ **指導者・審判員の養成**

熟練した指導者の高齢化や、女性指導者の不足などが課題となっています。

また、2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポを控え、審判員や競技運営員の不足も課題となっています。

○ **先端技術を活用した競技力向上対策**

競技力向上のための動作解析の必要性は多くの競技において認知されているものの、専門機器を活用したトップアスリートとの動作の比較等による技術指導はまだ普及していない状況です。トレーニングの効率を高め、より一層の競技力向上を図るため、先端技術を活用した競技力向上対策に取り組む必要があると考えられます。

○ **誰もが専門的な医科学サポートを受けられる環境の整備**

スポーツ障害の予防やトレーニング効果の向上のため、スポーツ医科学の面から支援が求められています。

他県の多くでは、スポーツ医科学拠点となる施設を設置していますが、県土が広い本県では、県内全域で活動するすべてのアスリートの支援を目指した独自の支援体制の構築が必要であると考えます。

○ **アスリートの経験・技術の活用**

アスリートが参加した県民向けのスポーツイベントやスポーツ教室等を充実させ、アスリートの経験や技術が、スポーツの魅力発信や県内スポーツの競技力向上等に活用されることが求められています。

○ **アスリートの県内定着**

アスリートが県内に拠点を持ち、全国や世界で活躍できるための環境を整備するため、アスリートの県内就職について、企業へ「長野県アスリート就職支援事業」の周知や働きかけを促進する必要があります。

1.4 「スポーツの持つ力の多面的活用」の現状と課題

1.4.1 これまでの取組状況

【第2次計画での主な取組】

- ・長野県スポーツコミッション*による大会やスポーツ合宿の誘致促進を通じた地域活性化
- ・山岳スポーツやウィンタースポーツなど、本県ならではのスポーツの魅力発信による誘客促進
- ・県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興

1.4.2 主な課題

○ スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化

ラグビーワールドカップ 2019™ではイタリア代表が上田市菅平高原にて事前合宿を実施し、東京 2020 オリンピック・パラリンピックでは、新型コロナウイルス感染症対策を図りつつ、4市2町にて7カ国の事前合宿が行われました。これらの経験を活かし、引き続き、スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致等を通じた地域活性化が求められています。

○ オリンピック・パラリンピックや国スポ・全障スポ等の大規模大会のレガシーの継承

1998年の長野冬季オリンピック・パラリンピック及び東京 2020 オリンピック・パラリンピックによって培われたスポーツへの参加意識や多様性理解の精神を、2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けて継承することが求められます。

また、信州やまなみ国スポ・全障スポ開催を契機として、スポーツへの関心の高まり、大会運営のノウハウ、競技力の向上などをレガシーとして継承することが求められます。

○ スポーツを通じた人々の交流促進

スポーツには、子どもから大人まで、障がいのある人もない人も、スポーツを中心に様々な主体をつなぎ合わせる力があり、2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運等を活用しながら、人々の交流促進を図ることが求められます。

○ プロスポーツとの連携

県内には地域密着型のプロスポーツチームが多く存在するため、これらのチームとの連携をさらに深め、スポーツ振興や地域の活性化等に取り組んでいく必要があります。

○ 健康長寿社会に向けた運動・スポーツによる健康づくり

体を動かす楽しみや、生活習慣病予防、医療費の抑制、フレイル*・介護予防等の観点から、運動・スポーツを通じた健康づくりへの期待が高まっています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なスポーツ活動が制限を受けたことにより、体力の低下やストレスの増加といった心身の健康保持への悪影響が生じた一方で、その反射的な効果として、運動やスポーツを通じた健康づくりの重要性が再認識されています。

第2章 計画の基本的な考え方

2.1 基本理念

スポーツの力で切り拓く長野県の未来

県民一人ひとりがその自発性のもとに、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、各々の適性や関心に応じて、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形で参画できる環境を整えることで、スポーツの持つ力や価値をより多くの県民が実感し、県民一人ひとりの生活や心を、スポーツを通じてより豊かにするといったウェルビーイングの実現を目指し、「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」を基本理念とします。

2.2 スポーツの力・価値

スポーツには様々な力や価値が潜在しています。

例えば、スポーツを「する」ことで、体力の向上や健康増進へ寄与することはもとより、多様なスポーツを気軽に楽しめる機会と場を通じて、自分もできるという経験から自己肯定感が生まれたり、人と人の触れ合いからコミュニケーションが活性化したりするなど、人々の生活や心を豊かにする力や価値があると考えられます。

また、スポーツを「みる」という観点からは、選手が試合や競技に挑戦する姿を「観る」ことから得られる感動に加え、更に「応援」することを通じて、選手と観客が一つとなれる一体感を得ることができると考えられ、「ささえる」という観点では、時には支える側に、また時には支えられる側になることで、他者を尊重し協働する精神を育むことができると考えられます。

このように、スポーツに親しむことで得られる「スポーツそのものが有する力・価値」を基本としつつ、スポーツを通じて地域の活性化や経済発展など、様々な社会課題の解決に寄与することから、「スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」という観点もあると考えられます。

以上から、本計画では、「スポーツの力・価値」を「①スポーツそのものが有する力・価値」と「②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値」の2つに大別した上で、下図のとおり、それらをさらに細分化し、これらの「力・価値」を活用し更に高めていくような「施策の展開」に取り組むことで、基本理念の実現を目指します。

第3次長野県スポーツ推進計画で捉える「スポーツの力・価値」					
①スポーツそのものが有する力・価値			②スポーツが社会活性化等に寄与する力・価値		
体力向上	心身の健全な発達	他者を尊重し協働する精神	地域活性化	地域社会のつながり	共生社会
楽しさ・喜び・自発性	生きる力(人間力)の向上	自己肯定感・達成感	健康長寿社会	経済発展	交流促進
コミュニケーション	生きがい	健康増進	魅力発信	好循環	レガシー
感動・一体感	夢・憧れ		異分野との連携		

第3章 施策の展開

3.1 施策の展開

基本理念である「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」の実現に向けて、次の4つの基本目標を設定しました。

それぞれの基本目標に「5年後の目指す姿」を掲げ、その実現に向けた具体的な取組を「施策の展開」で示すとともに、その基本目標の達成状況を測るための「目標・指標」を設定しました。

基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

- 1 幼児期からの運動の習慣化
- 2 学校体育・スポーツ活動の充実
- 3 子どもを取り巻くスポーツ環境の整備

基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実

- 1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
- 2 地域のスポーツ環境の整備

基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成

- 1 選手の育成強化・指導者養成による競技力向上
- 2 スポーツ界の好循環の創出

基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用

- 1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化
- 2 スポーツを通じた人々の交流促進
- 3 プロスポーツとの連携・協働の推進
- 4 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現

【目標・指標の考え方】

◆達成目標

基本目標の達成度を評価する指標を記述しています。

客観性確保のために、数値による指標を設定しています。

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標

目標の達成に向けて、客観的な根拠として分析し、有効に施策を実施するための指標です。

今後の状況の変化等により、指標の数や内容を変更する場合があります。

※ 基本目標4「スポーツの持つ力の多面的活用」については、目標の性質上、明確な数値による達成目標を設定することが馴染まないため、「目標達成に向けた分析の参考とする指標」のみ設定しています。

3.2 施策の展開の体系表

基本目標	項目	施策の展開	活用する主な「スポーツの力・価値」
1 子どもの運動・ スポーツ機会の充実	(1) 幼児期からの運動の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期からの運動の習慣化 ・長野県版運動プログラムの普及 ・指導者研修の充実 ・先進事例・好事例の市町村への普及定着支援 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健全な発達 楽しさ・喜び・自発性 コミュニケーション 地域社会のつながり
	(2) 学校体育・スポーツ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・体育・保健体育授業の支援 ・学校における体力向上に向けた取組の促進 ・適正で効果的なスポーツ活動の推進 ・学校体育・スポーツ活動の安全性の確保 ・教員研修の充実 ・障がいのある児童生徒に対する支援 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上 楽しさ・喜び・自発性 生きる力 自己肯定感・達成感
	(3) 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものスポーツ環境の充実 ・公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行 ・魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実 ・親子参加型スポーツ体験の充実 ・障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進 ・スポーツを通じた共生社会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しさ・喜び・自発性 地域社会のつながり 共生社会 交流促進
2 生涯を通じたスポーツ機会の充実	(1) ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及 ・青壮年期のスポーツ活動の促進 ・高齢期のスポーツ活動の促進 ・「みるスポーツ」の普及 ・「ささえるスポーツ」の普及 ・長野県の特徴を活かしたスポーツの推進 ・障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しさ・喜び・自発性 他者を尊重し協働する精神 健康増進 感動・一体感
	(2) 地域のスポーツ環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の活動支援 ・総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援 ・地域スポーツ拠点のマルチ化 ・地域スポーツ指導者の養成 ・「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 ・スポーツにおける安全の確保 ・スポーツイベントの充実 ・スポーツ施設の充実・維持管理 ・県立武道館を核とした武道振興 ・地域における障がい者スポーツ環境の整備 ・スポーツを通じた共生社会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがい 地域社会のつながり 共生社会 交流促進
3 全国や世界で活躍する選手の育成	(1) 選手の育成強化・指導者養成による競技力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力向上対策 ・指導者の養成と確保 ・ジュニア選手の発掘・育成の推進 ・女性アスリートの支援 ・一貫指導体制の充実 ・マルチサポートの推進 ・冬季競技の強化 ・トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起 ・県立武道館を核とした武道強化 ・大学や企業との連携 ・先端技術を活用した競技力向上対策 ・「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 ・障がい者アスリートの養成 	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上 夢・憧れ 地域社会のつながり レガシー
	(2) スポーツ界の好循環の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・県内を拠点とした競技活動の支援 ・アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 夢・憧れ 魅力発信 好循環 レガシー
4 スポーツの持つ力の多面的活用	(1) スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会の事前合宿誘致を通じた地域経済の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化 地域社会のつながり 経済発展 交流促進
	(2) スポーツを通じた人々の交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大会等の開催を通じた人々の交流 ・オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続 ・信州ならではのスポーツの魅力発信 ・信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 交流促進 魅力発信 レガシー 異分野との連携
	(3) プロスポーツとの連携・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツとの連携事業の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 感動・一体感 他者を尊重し協働する精神 地域活性化 魅力発信
	(4) 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツを通じた健康づくりの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生きがい 健康増進 健康長寿社会 魅力発信

3.3 具体的な施策の展開

基本目標 1 子どもの運動・スポーツ機会の充実

1 幼児期からの運動の習慣化

5年後の目指す姿

- 長野県版運動プログラム*が普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。
- 幼児期からの運動遊びに関する理解が広がり、県内各地で活発な取組が行われている。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

心身の健全
な発達

楽しさ・喜び
・自発性

コミュニ
ケーション

地域社会の
つながり

施策の展開

○ 幼児期からの運動の習慣化

- ・ いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるよう、親子運動遊びの普及と、地域での運動環境づくりの支援体制の強化を支援します。
- ・ 発達段階に応じた運動習慣の定着の必要性について、休日の親子運動教室等を活用して、保護者等へ周知していきます。
- ・ 市町村が実施する乳幼児健診等の母子保健事業を通じて、乳幼児の心身の発達を促し親子のコミュニケーションを図る遊びの一環として、月齢に応じた身体活動について周知していきます。

○ 長野県版運動プログラムの普及

- ・ 長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所・認定こども園、学校、家庭や地域のクラブ等でより一層活用されるよう、研修講座や講師派遣等を充実させます。
- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園、小学校に配布した長野県版運動プログラム DVD の活用を促進するとともに、家庭や地域のクラブに対しては、ホームページ上の動画の活用を呼びかけます。
- ・ 長野県版運動プログラムの趣旨や運動内容、発達段階に応じた指導法が、市町村や地域のスポーツクラブ等で行われる運動教室にも生かされるなど、運動好きの子どもが育つ運動プログラムの普及を進めます。

○ 指導者研修の充実

- ・子どもが楽しく運動に取り組み、体力やコミュニケーション能力等が高められるよう、体育センター等において指導者研修を実施します。

○ 先進事例・好事例の市町村への普及定着支援

- ・幼児期からの一貫した体力向上策に取り組む市町村の先進事例・好事例を、他の市町村に発信し、その普及を図ります。

2 学校体育・スポーツ活動の充実

5年後の目指す姿

- 運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に体育館や校庭などで遊ぶ子どもたちが増えている。
- 効果的な ICT 活用により、ニーズに応じて、データベース上の資料や動画をいつでも確認できる等、運動の技能差にかかわらず個別最適な体育授業が充実している。
- 少子化の進行に伴い、学校単位での運動部活動の成立が困難な学校においても、学校間や市町村間、または地域のスポーツクラブ等との連携により、スポーツ活動機会が確保され、その団体での各種大会への参加も可能となっている。
- 国際大会や全国大会を目指す子どもたちの練習環境が整い、それぞれの目標に向けてひたむきに取り組む子どもが増えている。
- 障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導を受けられ、障がいの有無にかかわらず一緒に運動遊びを楽しんでいる。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

体力向上

楽しさ・喜び
・自発性

生きる力
(人間力)の向上

自己肯定感・
達成感

施策の展開

○ 体育・保健体育授業の支援

- ・生活における運動の大切さが実感できる健康教育との連携を図りながら、個々の特性に応じた運動の楽しさを感じる授業づくりを推進します。
- ・効果的な ICT の活用が広がり、様々な違いに関わらず運動の楽しさを追究できる学習の個性化や、次時の課題を自ら見出していく振り返り等の充実を通じて、子どもが主体的に学ぶ授業を推進します。
- ・各校のカリキュラムマネジメントを工夫し、運動好きの割合が低くなる傾向にある中高生の女子のニーズに応じた運動種目の教材化を進めるとともに、運動の大切さを感じら

れる取組の継続を推進していきます。

- ・ 信州型コミュニティスクール*等を活用し、地域住民等による体育授業のサポートを促進します。
- ・ 県内で開催されるアスリート、パラアスリートの競技会観戦を授業の一環として実施することを推進します。
- ・ 小学校における専科教員について、その効果を検証しながら、今後の配置について検討していきます。

○ 学校における体力向上に向けた取組の促進

- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用し、運動好きな子どもを増やすとともに体力向上を目指します。
- ・ 体力テスト*の結果から、成果と課題を反映した「体力向上プラン*」を各校で作成し、児童生徒の体力向上と併せ、運動好きの子どもが育つ取組にも役立てます。
- ・ 全ての児童生徒の生活の中に運動が存在するよう、日常的に運動が少ない児童生徒でも参加しやすくなるような工夫をした「ながのスポーツスタジアム*」や「一校一運動*」を推進します。
- ・ 小中学生の体力テストの結果を各市町村やスポーツ推進委員と共有することにより、各市町村での体力向上施策の修正、改善につなげるとともに、運動教室の実施等、子どもの運動環境の構築を支援します。

○ 適正で効果的なスポーツ活動の推進

- ・ 「長野県中学生期のスポーツ活動指針*」及び「長野県高等学校の運動部活動方針*」に基づく発達段階に応じた適正で効果的な活動を通して、運動好きで生涯にわたり運動に親しむことができる子どもの育成を目指します。
- ・ 生徒の多様なニーズや運動の機会の少ない中学生や高校生等に対応するため、楽しくスポーツができ、複数種目を経験できるようなスポーツ環境づくりを支援します。
- ・ 体育センターでの研修講座等により、発達段階に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上を図ります。

○ 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保

- ・ 熱中症予防や感染症対策等の周知を徹底し、スポーツや運動に取り組む子どもたちの安全確保に努めます。
- ・ 武道、水泳をはじめとする学校体育・スポーツ活動に対する指導者の安全意識を高めるため、体育センターや研究協議会等での研修を充実させ、安全で効果的な活動を推進します。
- ・ 「頭頸(けい)部外傷事故発生時の対応フローチャート*」をすべての関係者が共有し、事故が発生した際には、同フローチャートに基づいた適切な対応により、重篤事故の防止に努めます。
- ・ 高校生の冬山・春山での登山活動を安全に行うため、「登山部顧問等安全登山講習会」等において、「長野県高校生の冬山・春山登山における安全確保指針*」の遵守・徹底を図ります。

- ・ 児童生徒の体育・スポーツ活動が安全に実施できるように、体育施設や用具の整備、メンテナンスを適切に行うよう支援します。

○ **教員研修の充実**

- ・ 体育センター等における教員の研修機会を充実し、教員の指導力向上を図ります。

○ **障がいのある児童生徒に対する支援**

- ・ 特別支援学校などにおいて、児童生徒の「個別の指導計画」に基づき一人ひとりのニーズや適性に応じた体育やスポーツ活動に係る支援の充実を図ります。
- ・ 障がいのある児童生徒とない児童生徒の「交流及び共同学習」において、ともに体育やスポーツ活動を行うことにより交流を深める取組を推進します。
- ・ 卒業後も地域社会において、生涯を通じてスポーツ等に親しめるよう、特別支援学校間のスポーツ交流や、地域と連携した卒業後の豊かな生活につながる学習活動の充実を図ります。
- ・ トップアスリートとの交流等を通じ、スポーツを志向できる環境づくりを推進します。

3 子どもを取り巻く地域スポーツ環境の充実

5年後の目指す姿

- 地域の持続可能で多様なスポーツ環境が整備され、子どもたちの多様な体験機会が確保されている。
- 子どもたちが仲間同士で、安全に自然体験活動ができる場所やスポーツ施設が身近にあり、屋内外で体を動かして楽しく遊ぶことができる環境が整っている。
- 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆(きずな)が深まっている。
- プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、応援や試合観戦など、スポーツを見て楽しんでいる子どもが増えている。
- 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが盛んに開催されている。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

楽しさ・喜び
・自発性

地域社会の
つながり

共生社会

交流促進

施策の展開

○ **子どものスポーツ環境の充実**

- ・ 学校体育以外でも運動をしたい子どもや、運動習慣が身につけていない子どもなど、多様なニーズのある子どもの受け皿となるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブの充実を図り、全ての子どもに運動機会を提供できる環境を整えます。
- ・ 2028年に開催する信州やまなみ国スポ・全障スポへの関心を高め、生涯を通して「する・みる・ささえる」スポーツの参加機会を増やし、運動の楽しさが得られるように努めます。
- ・ 体育センター、教育事務所等の実技指導、研修を充実し、子どものスポーツ活動を支える指導者を支援します。
- ・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、子どもたちが武道を見たり、体験する機会を提供します。

○ **公立中学校等における学校部活動の地域クラブ活動への移行**

- ・ 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、まずは休日の活動から着手し、学校、市町村、地域のスポーツクラブ等との連携・協働による地域を拠点としたスポーツ環境づくりを支援します。
- ・ 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、総合型地域スポーツクラブや地域における競技団体等の指導者の確保や質の向上を図るための取組を支援します。

- **魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実**
 - ・ 山岳総合センター等での研修講座等を通して、子どもが安全で楽しく野外活動ができるように指導者の研修を推進します。

- **親子参加型スポーツ体験の充実**
 - ・ 休日などに親子で参加できるスポーツ機会を増やし、親子で楽しみながら運動するきっかけづくりと、子育て世代の生涯スポーツにつながる運動機会の提供を図ります。
 - ・ 県内で開催されるプロスポーツやパラスポーツ等の競技を親子で観戦し、スポーツについて親子で語り合うことによりスポーツ関心度を高めます。

- **障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進**
 - ・ 2028年の信州やまなみ全障スポに向け、開催気運の醸成に努め、本県選手が活躍できるよう選手の発掘・育成を行います。
 - ・ 様々なスポーツに親しむ機会を提供するため、障がいのある子どもを対象とした、スポーツ体験会を充実します。
 - ・ 障がいのある子どもの保護者を対象にスポーツを行う意義の啓発を行い、保護者のスポーツに対する意識改革を図ります。
 - ・ 障がいのある子どもがスポーツをする際に、障がいの程度や種類に応じて必要な配慮がなされるよう、関係者や保護者の障がいに対する理解を促進します。
 - ・ 障がいのある子どもとない子どもと一緒にスポーツできる環境づくりを推進し、共生社会の実現を加速させます。
 - ・ 小中学生・保護者を対象に、障がい者スポーツの体験会を開催し、障がい者スポーツや障がい者の社会参加に関する理解促進を図ります。

- **スポーツを通じた共生社会づくり**
 - ・ 「パラウェーブNAGANO*」プロジェクトとして、県内の学校に対し、パラ学（県独自のコンテンツであるパラスポーツ体験型授業）を提供し、共生社会づくりを推進します。

◆達成目標

指標名		現状	目標(令和9年度)	備考
体力合計点 (小・中学生男女合計平均)		49.0点 (令和4年度)	52点	・本県の過去最高点(51点)の更新を目指す ・52点はR3 全国1位の水準 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合 (中学生女子)		77.2% (令和4年度)	80%	・本県の過去最高割合(79.8%)の更新を目指す ・80%はR3 全国1位の水準 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60分未満の子ども割合	小学生男子	8.9% (令和4年度)	6%以下	・過去5年の全国平均(7.7%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	小学生女子	16.7% (令和4年度)	10%以下	・過去5年の全国平均(12.7%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	中学生男子	8.1% (令和4年度)	6%以下	・過去5年の全国平均(7.1%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
	中学生女子	18.2% (令和4年度)	17%以下	・過去5年の全国平均(18.8%)の水準を下回ることを目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標

- ・長野県版運動プログラム実施市町村数
- ・総合型地域スポーツクラブによる長野県版運動プログラム実施数
- ・長野県版運動プログラム普及講座受講者数
- ・一校一運動実施率
- ・ながのスポーツスタジアム参加数
- ・学校体育指導者研修受講者数
- ・学校体育実技(武道)講習会受講者数
- ・運動部活動及び地域のスポーツクラブ加入率
- ・地域のスポーツ活動指導者向け研修の受講者数
- ・学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて受け皿となる運営団体の設置率
- ・総合型地域スポーツクラブによる「ゆるスポ活動*」実施数
- ・バラ学(県独自の体験型授業)の実施クラス累計数
- ・障がい者スポーツ指導員の数
- ・障がい者スポーツの体験会や交流会等を実施する市町村の数

1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進

5年後の目指す姿

- 多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族、仲間、多世代間等の交流を通じ、スポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
- デジタル技術を活用したスポーツの場の提供により、時間・場所を気にすることなく、日々の生活の中にスポーツが取り入れられている。
- プロスポーツチームの試合や各種スポーツ大会の観戦・応援などスポーツをみて楽しむ人が増加している。
- スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、スポーツを「ささえる」人が増加している。
- 社会の障がいに対する理解が促進され、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。

活用し更に高めていく主な
スポーツの力・価値楽しさ・喜び
・自発性他者を尊重し
協働する精神

健康増進

感動・一体感

施策の展開

○ ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及

- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。
- ・ 県レクリエーション協会等と連携し、軽運動やニュースポーツ*など、高齢者を含む多くの世代や障がい者が気軽にできる運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。
- ・ スポーツに関わる余暇時間が少ない県民にも、できるだけスポーツに興味や関心を持てるような働きかけを行います。
- ・ 働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。
- ・ 運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。
- ・ 時間や場所に関わらず、日々の生活の中にスポーツが取り入れられるよう、デジタル技術（リモート等）を活用したスポーツの場の提供を進めます。

○ **青壮年期のスポーツ活動の促進**

- ・ 運動不足になりがちな働く世代が、生活習慣病予防のため、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診・保健指導の際の意識啓発を推進します。

○ **高齢期のスポーツ活動の促進**

- ・ 体を動かす楽しみやフレイル*・介護予防の観点から、高齢者がスポーツ活動に積極的に取り組めるよう支援します。また、高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。
- ・ 体力的な理由等により運動・スポーツをすることが困難な高齢者に対し、スポーツ観戦やスポーツボランティアへの参加等のスポーツとの関わり方を普及し、スポーツが生活に潤いを与える社会の実現を目指します。

○ **「みるスポーツ」の普及**

- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツを「みる」習慣化を促進します。
- ・ 県内で開催される世界大会や全国大会の情報を収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。
- ・ 県内に本拠地を置くプロスポーツチームのファン・サポーターを増やし、県内で開催される試合の観戦者の増加を目指します。
- ・ 本県出身のプロスポーツ選手やトップアスリートの活躍を広く県民に広報し、県民のスポーツへの関心度を高めます。

○ **「ささえるスポーツ」の普及**

- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツを「ささえる」人口の拡大を図ります。
- ・ 地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、スポーツイベントを実施する地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。
- ・ スポーツボランティアの実施希望率が高い若者世代が、ボランティア活動に参加しやすい環境の整備を進めます。
- ・ 障がい者スポーツの支援にスポーツボランティアとして参画する者が増加するよう、関係機関と連携して取り組みます。

○ **長野県の特徴を活かしたスポーツの推進**

- ・ 県民が親しみをもって取り組んでいるスポーツを推進し、多くの県民が生涯を通じてスポーツを身近に感じることが出来る環境づくりを推進します。

○ **障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進**

- ・ 障がい者が、適性や目的に応じたスポーツ活動ができるよう、様々なスポーツの体験教室を開催します。
- ・ 多くの障がい者が参加できるよう、障がい者スポーツ大会を充実します。

- ・スポーツに親しみ、楽しむ障がい者を増やすため、スポーツ体験会やセミナーの開催を通じて、障がい者及び介助者等に対しスポーツの意義を啓発します。
- ・ホームページ、県・市町村広報紙などを通じ、障がい者スポーツに関する情報の発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。
- ・特別支援学校の生徒が、卒業後に継続してスポーツを行うことができるよう、特別支援学校、総合型地域スポーツクラブ等の関係機関が連携し、生涯にわたりスポーツに親しめるよう取り組みます。

2 地域のスポーツ環境の整備

5年後の目指す姿

- スポーツ推進委員がコーディネーター役となり、それぞれの地域で、個々の目的や適性等に応じたスポーツ活動が活発に行われている。
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。
- 「長野県スポーツ医科学ネットワーク*」を活用し、アスリートだけでなく、地域住民も健康状態に応じて安全かつ効果的な運動・スポーツプログラムが日常生活に取り入れられている。
- 大規模改修時期を迎えた県有スポーツ施設が適切に改修され、誰もが利用しやすいスポーツ施設として整備されている。
- 障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

生きがい

地域社会の
つながり

共生社会

交流促進

施策の展開

○ スポーツ推進委員の活動支援

- ・スポーツ推進委員が、学校、地域、スポーツ団体及び民間スポーツクラブ等の橋渡し役となり、地域スポーツのコーディネーターとして活動できるよう、市町村と連携して活動を支援します。

○ 総合型地域スポーツクラブ等の育成と安定運営に向けての支援

- ・地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営や質的充実を推進するため、関係団体と連携し中間支援組織*を支援します。

- ・ 中間支援組織が実施するアシスタントマネージャー*養成講習会等、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる中心的人材の育成を支援します。
 - ・ 地域のスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団等）の安定的な運営に向けて継続的に活動を支援し、市町村、長野県スポーツ協会、長野県スポーツ推進委員協議会等、各関係団体が連携した体制づくりを推進します。
- **地域スポーツ拠点のマルチ化**
- ・ 公民館、文化施設等において、従来から行っている生涯学習・文化・地域活動に加えて、スポーツ活動を行う取組を支援することにより、スポーツに関心のない県民でも気軽に参加できる環境整備を促進します。
- **地域スポーツ指導者の養成**
- ・ 体育センター等の研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。
 - ・ スポーツで活躍した選手やスポーツ指導法を学んだ大学卒業生が、総合型地域スポーツクラブ等においてスポーツ指導に従事できるような環境づくりを研究していきます。
 - ・ 地域のスポーツ指導者相互の連携を図ります。
 - ・ 各地域で障がい者スポーツを指導する人材を養成するため、障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催します。
- **「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築**
- ・ 各地域の医療関係者等の協力を得て、医科学サポートの提供が可能な施設・人材を発掘し、アスリートのみならず県民誰もが県内各地で医科学的なサポートを受けられるネットワーク体制の構築を目指します。 ※「長野県スポーツ医科学ネットワーク」については P32 を参照
- **スポーツにおける安全の確保**
- ・ 体育センター、長野県スポーツ協会、長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会や「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の活用を通じて、最新のスポーツ医科学的知見に基づくスポーツ事故・外傷等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組を推進します。
 - ・ 市町村やスポーツ団体に対し、AEDの設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにAEDを使用できる体制整備を図るよう啓発します。
 - ・ スポーツとしての登山を安全に楽しむために、登山者が安全登山の知識や技術を能動的に学べる機会の提供等により、安全に登山が楽しめる環境づくりを推進します。
- **スポーツイベントの充実**
- ・ 「長野マラソン」、「長野県障がい者スポーツ大会」、「信州ねんりんピック*」等、広く県民が参加しスポーツに親しめるイベントの充実を図ります。
 - ・ 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図る取組を支援します。

○ **スポーツ施設の充実・維持管理**

- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。
- ・ 県営スポーツ施設が、ニーズの変化に対応し、誰もが身近で安全に利用しやすい施設となるよう、ユニバーサルデザインの導入を積極的に検討するなど、利用者の意見に十分配慮しながら施設の充実と適切な維持管理に努めます。
- ・ 体操等が気軽にできる場として都市公園等オープンスペースの有効活用を推進し、施設以外にもスポーツができる場を創出します。
- ・ 誰もが気軽にサイクリングを楽しめるよう、諏訪湖周にサイクリングロードを整備します。

○ **県立武道館を核とした武道振興**

- ・ 県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。
- ・ 全国大会を継続的に誘致し、トップレベルの選手を間近で「みる」機会を増やします。

○ **地域における障がい者スポーツ環境の整備**

- ・ スポーツ推進委員が、地域内で広く人々とスポーツを通して関わり、障がい者スポーツの普及や発展に努められるように支援します。
- ・ 総合型地域スポーツクラブが地域の学校や施設等と連携して、障がい者が参加するプログラムを実施できるような環境づくりを推進します。
- ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、県・市町村の運動施設での障がい者スポーツ用具の整備を促進します。
- ・ 障がいがあることを理由に施設利用が制限されないことがないよう、施設管理者や職員の障がい者スポーツに対する理解を促進します。
- ・ 障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、特別支援学校などの体育施設や競技用具の地域への開放を促進します。
- ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーター*が、障がい者スポーツを支える行政・関係団体・指導者等の協力を得ながらネットワークを構築し、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめるよう支援します。
- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、多くの障がい者が障がい者スポーツを生涯スポーツとして取り組めるよう環境を整えます。

○ **スポーツを通じた共生社会づくり**

- ・ 「パラウェアNAGANO」プロジェクトとして、障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツ大会やイベント会場等でのパラスポーツ体験会等を開催し、共生社会づくりを推進します。

◆達成目標

指標名	現状	目標(令和9年度)	備考
成人の運動・スポーツ実施率 (成人の週1日以上)	60.8% (令和3年度)	70%	・国の第3期スポーツ基本計画の目標値と同一 【県政モニターアンケート調査】
直接スポーツ観戦率	8.0% (令和3年度)	20%	・本県の過去最高割合(13.5%)の更新を目指す 【県政モニターアンケート調査】
スポーツボランティア参加率	4.2% (令和3年度)	15%	・本県の過去最高割合(10.7%)の更新を目指す 【県政モニターアンケート調査】
地域のスポーツクラブへの加入率	8.7% (令和3年度)	20%	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準(約10%)からの倍増を目指す 【(加入者数)スポーツ課調】 【(県人口)毎月人口異動調査】
障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの割合	26.9% (令和3年度)	50%	・令和10年の本県での全障スポ開催を1年前に控え、全総合型地域スポーツクラブの半数を目指す 【障がい者支援課調】

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標

- ・アシスタントマネージャー養成講習会受講者数
- ・生涯スポーツ研修講座受講者数
- ・スポーツ事故等に関する講習会受講者数
- ・総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度*の登録クラブ数
- ・総合型地域スポーツクラブと障がい福祉施設等が連携した障がい者スポーツの拠点数

基本目標 3

全国や世界で活躍する選手の育成

1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上

5年後の目指す姿

- オリンピックやパラリンピックなどの国際舞台や、全国大会で活躍する本県選手が増加している。
- 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、本県の競技力が向上している。
- 優秀な多くの指導者が遺憾なく力を発揮できる強化指導體制・環境が構築されている。
- ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファー*など、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。
- 拠点を中心とした発掘・育成体制が整備され、競技人口の安定確保とともに、ジュニアアスリートの全国大会出場数が増加している。
- SWANプロジェクト修了生がオリンピックに出場し、メダルを獲得している。
- 本県のトップアスリートが県内のどこでも医科学サポートを受けられ、最先端の科学的な強化指導が受けられる環境が整備されるとともに、スポーツに親しむ一般県民にも医科学サポートが浸透し始めている。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

体力向上

夢・憧れ

地域社会の
つながり

レガシー

施策の展開

- **2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポに向けた競技力向上対策**
 - ・ 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得を目指し、「長野県競技力向上基本計画」に基づき、関係団体とともに競技力向上対策を推進していきます。
 - ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポ開催後も競技力を維持できる選手の育成・強化体制の確立を目指し、競技団体との連携を一層推進します。
 - ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催を契機に、審判員や競技運営員等のスポーツを支える人材を地域に輩出する取組を推進します。
 - ・ 2028年の信州やまなみ国スポに向けた指導者養成特別対策として、各競技団体の中央研修会への参加や公認指導者資格取得を支援し、指導力のレベルアップとともに持続可能な指導體制の確立を目指します。

- ・ 2028年の信州やまなみ全障スポで、本県選手が活躍できるよう選手の育成を行います。

○ **指導者の養成と確保**

- ・ 体育センターの研修を充実し、指導者の資質向上を図ります。
- ・ 長野県スポーツ協会と連携し、各競技団体が行う指導者育成を支援します。
- ・ アドバイザリーコーチの配置や強化指定指導者制度の創設など指導体制の強化を図ります。
- ・ 本県ゆかりのオリンピック等の協力を得て、指導者が参加する講習会の開催などを通じて、指導技術の向上を図ります。
- ・ 指導に係る情報交換や指導技術の共有化を図るため、各競技間における指導者の連携を深めます。
- ・ 優秀な指導者が、県内に定着し、県内を拠点に活躍できる環境づくりを推進します。

○ **ジュニア選手の発掘・育成の推進**

- ・ 地域のスポーツクラブや競技団体、小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちが発掘され、適正種目への転向（トランスファー）も可能となる体制を整備します。
- ・ SWANプロジェクト事業を推進し、世界で競える高い資質を持った人材を発掘育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。

○ **女性アスリートへの支援**

- ・ 女性特有の課題に着目した医科学サポート等の支援方法の研究を進めます。また、女性指導者の育成に努めます。

○ **一貫指導体制の充実**

- ・ 各競技団体が主導する多世代による一貫指導体制の拠点化を支援するとともに、学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けた取組との連携を推進します。

○ **マルチサポートの推進**

- ・ すべての競技団体が、日常の練習や強化合宿等において、スポーツドクターや理学療法士などの医科学関係者からのサポートを受けられる体制の構築を目指します。
- ・ 体力や健康状態の正確な把握やドーピング防止研修等、医科学の面から競技者や指導者をサポートします。

○ **冬季競技の強化**

- ・ オリンピック等の国際舞台で活躍できるよう、冬季競技の選手強化と競技人口の拡大を支援していきます。

○ **トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起**

- ・ トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、子どもたちがトップスポーツへ夢や憧れを抱き競技に挑む意欲を喚起します。

○ 県立武道館を核とした武道強化

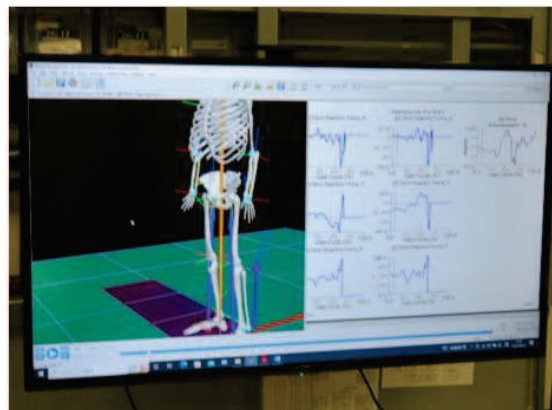
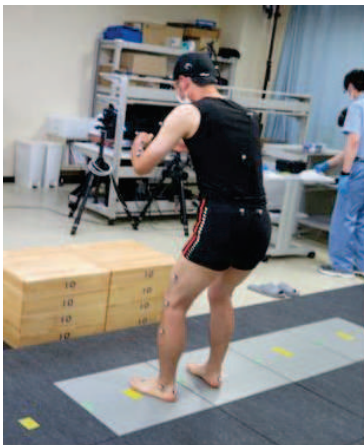
- ・ 県立武道館にトップレベルの選手が参加する大会を誘致して「みる」機会を充実させるとともに、指導力を高める講習会等の開催により、競技人口の増加及び競技力の向上を図ります。
- ・ 体系的な指導者育成・研修プログラムによる指導者養成を行うとともに、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等の地域スポーツ団体との連携を図り、適正で効果的な指導の普及を図ります。

○ 大学や企業との連携

- ・ 県内の大学、企業等との連携により、ICTや先端技術の活用による競技力向上を目指すとともに、地域スポーツとの連携・協働による好循環の創出を図ります。
- ・ 企業に対し、アスリートの雇用や障がい者スポーツ振興に対する支援の拡大を働きかけます。

○ 先端技術を活用した競技力向上対策

- ・ 動作解析装置等を活用し、スポーツ医科学関係者と協力した競技力向上の研究を行い、科学的根拠に基づいた育成強化に取り組みます。



工業技術総合センター環境・情報技術部門の動作解析装置を活用した計測の様子（ジャンプ動作時）

○ 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築

- ・ 県内どこでも医科学的なサポートを受けられるよう、スポーツ医科学関係者をネットワークで繋ぎ、官民共同で県内全域のアスリートをサポートできる体制を構築します。

「長野県スポーツ医科学ネットワーク」とは



第82回国民スポーツ大会（信州やまなみ国スポ）での天皇杯・皇后杯の獲得を目指して設置された「長野県競技力向上対策本部」に位置付けられた「医科学専門委員会」では、選手の競技力向上を目的とした医科学支援体制「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築を目指しています。

すでに各競技団体をサポートしている方をはじめ、これからサポート活動への従事を希望する方も含め、より多くのスポーツ医科学関係者をネットワークでつなぎ、**県内全域で活動するトップアスリートはもちろん、大会終了後を見据え、スポーツを始めたばかりの子どもから、健康増進を目的とした高齢者まで、幅広い志向・年代に対応できる地域人材の活用と専門性の養成を推進**します。

○ 障がい者アスリートの養成

- ・ 一般のスポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上ができる環境づくりを構築します。
- ・ 障がい者スポーツ地域コーディネーターが、地域の障がい者スポーツの情報を集め、障がい者アスリートと指導者等とを結びつけ、アスリートの競技力向上を図ります。
- ・ 障がい者スポーツの競技人口の拡大と障がい者スポーツに対する県民の理解や関心を高めるため、パラリンピック等での障がい者アスリートの活躍などを広く情報発信します。

2 スポーツ界の好循環の創出

5年後の目指す姿

- 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。
- 高校・大学卒業後も地域や企業に支えられながら、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。
- 本県を代表するアスリートが、交流イベントやスポーツ教室などで県民と交流し、スポーツの魅力を発信している。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

夢・憧れ

魅力発信

好循環

レガシー

施策の展開

○ 県内を拠点とした競技活動の支援

- ・ 県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業」を更に充実強化します。

○ アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚

- ・ 本県関係アスリートが参加して県民と交流するスポーツイベントやスポーツ教室などの機会を拡大する取組を支援します。

◆達成目標

指標名		現状	目標(令和9年度)	備考
国民スポーツ(体育)大会	天皇杯(男女総合)順位	15位 (令和4年)	5位以上	・令和10年信州やまなみ国スポで1位を目指す ・「競技力向上基本計画」に掲げる目標順位
	冬季大会順位	2位 (令和4年)	1位	・直近5大会の分析をもとに目標設定
	本大会順位	34位 (令和4年)	10位以上	・直近5大会の分析をもとに目標設定
国民スポーツ(体育)大会(少年)・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		254人・団体 (令和4年度)	300人・団体以上	・令和10年信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて過去最多の入賞数を目指す
ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季オリンピック(2026年)でSWANからメダリスト輩出		0人 (令和4年冬季北京五輪)	1人以上	・SWAN プロジェクト出身者からメダリスト輩出を目指す
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)		1競技 (令和4年度)	6競技	・信州やまなみ全障スポ開催を1年後に控える中、全12競技の半数で予選突破を目指す

◆目標達成に向けた分析の参考とする指標

- ・北信越国体における本大会への出場権獲得数
- ・SWAN プロジェクトメンバーの全国中学校体育大会入賞数
- ・オリンピック育成支援対象者の世界大会出場人数
- ・長野県アスリート就職支援事業による県内就職アスリート数
- ・医科学サポートを選手強化の中に位置付けて選手を支援している競技団体数
- ・先端技術を活用した競技力向上に対応できる競技(種目)数
- ・全国障害者スポーツ大会ブロック予選に出場する団体競技数(障がい種別、男女別)

基本目標 4

スポーツの持つ力の多面的活用

1 スポーツツーリズム*の推進による地域経済の活性化

5年後の目指す姿

- 長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

地域活性化

地域社会の
つながり

経済発展

交流促進

施策の展開

- **スポーツ大会・合宿等の誘致を通じた地域経済の活性化**
 - ・ 長野県の特徴を活かしたスポーツ大会・合宿等を誘致し、スポーツを通じた交流促進等により地域活性化を図ります。

2 スポーツを通じた人々の交流促進

5年後の目指す姿

- 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために、日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

交流促進

魅力発信

レガシー

異分野との連携

施策の展開

- **国際大会等の開催を通じた人々の交流**
 - ・ 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを最大限に活かした国際大会等を誘致し、世界の人々との交流や誘客を促進します。

○ **オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流の継続**

- ・ 東アジアで連続して開催されたオリンピック・パラリンピックを契機とした韓国・中国との交流をレガシーとして引継ぎ、スポーツを通じた両国との交流を更に発展させます。

○ **信州ならではのスポーツの魅力発信**

- ・ 山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ信州で親しまれているスポーツの魅力を発信するとともに、より受け入れしやすい環境を整え誘客を促進します。
- ・ 銀座NAGANO等を活用して、信州ならではのスポーツの魅力発信を行います。

○ **信州やまなみ国スポ・全障スポを通じた地域の活性化**

- ・ 信州やまなみ国スポ・全障スポの競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図るとともに、大会終了後もレガシーとして地域のスポーツ文化が根付いていくような取組を支援します。

3 プロスポーツとの連携・協働の推進

5年後の目指す姿

- プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

感動・一体感

他者を尊重し
協働する精神

地域活性化

魅力発信

施策の展開

○ **プロスポーツとの連携事業の推進**

- ・ 「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定*」を締結したプロスポーツチーム等と連携・協力し、その知名度・発信力を活かしたスポーツの振興、青少年の健全育成、人権啓発活動、県民の健康増進及び観光振興など地域の活性化を図る取組を実施します。
- ・ プロスポーツチームが実施する地域の発展に寄与する社会貢献活動等について広く情報発信します。

4 運動・スポーツを通じた健康長寿社会の実現

5年後の目指す姿

- フレイルの増加や地域コミュニティの弱体化等、様々な社会問題へスポーツの力が多面的活用され、課題解決に寄与している。

活用し更に高めていく主な スポーツの力・価値

生きがい

健康増進

健康長寿社会

魅力発信

施策の展開

○ 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進

- ・ 「信州 ACE プロジェクト*」を推進し、運動の重要性や手軽に毎日取り組める運動の具体的手法を広めることにより、生活習慣病予防を始めとした県民の健康づくりを推進します。
- ・ 2028年の信州やまなみ国スポ・全障スポの開催気運を活用して、スポーツに親しむ人口の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。(再掲)
- ・ 働く世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。(再掲)
- ・ 運動時間が不足しがちな子育て世代が心身の健康を保つための運動など、ニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。(再掲)
- ・ 運動不足になりがちな働く世代が、生活習慣病予防のため、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診・保健指導の際の意識啓発を推進します。(再掲)
- ・ 体を動かす楽しみやフレイル・介護予防の観点から、高齢者がスポーツ活動に積極的に取り組めるよう支援します。また、高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。(再掲)

指標

<基本目標4> スポーツの持つ力の多面的活用

◆ 目標達成に向けた分析の参考とする指標

- ・ 冬季スポーツを通じた中国とのジュニア選手交流競技数
- ・ スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定に基づく実施事業数
- ・ 健康づくりのために運動の取組を行っている者の割合

<用語解説>

ア行	
アシスタントマネジャー	総合型地域スポーツクラブ等において、クラブ会員が充実したクラブライフを送ることができるよう、クラブマネジャーを補佐し、クラブマネジメントのための諸活動をサポートする者。
一校一運動	体力向上プランの取組の一つ。児童生徒の体力向上に向けて、学校ごとテーマ(マラソン、縄跳び等)を設け、学校一丸となって年間を通して取り組む運動。
ウェルビーイング (Well-being)	身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含み、また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念。
カ行	
県立武道館	本県の武道振興の中核的拠点とするため、県が佐久市に建設した武道施設。延床面積約12,300㎡。主道場は柔道・剣道6面、観客席約1,500席を有する。令和2年(2020年)3月開館。
サ行	
障がい者スポーツ地域コーディネーター	地域において障がい者がスポーツを行う機会を拡大するため、障がい者の実態把握や一般スポーツ界への受け入れの働きかけ、スポーツに関する情報提供や相談、指導者の紹介等を行う者。
信州ACEプロジェクト	脳卒中等の生活習慣病予防に効果のあるAction(アクション、体を動かす)、Check(チェック、健診を受ける)、Eat(イート、健康に食べる)に取り組む県民運動の名称。
信州型コミュニティスクール	「地域と共にある学校づくり」に向けて、学校運営参画、協働活動、学校評価の3つの機能を一体的・持続的に実施する仕組み。
信州ねんりんピックスポーツ交流大会	スポーツを通じた積極的な仲間づくりや世代間交流により、ふれあいと活力ある長寿社会づくりを進めることを目的とし、県内在住の60歳以上の県民を対象に開催されているスポーツイベント。
スポーツ少年団	地域社会においてスポーツ活動を中心に組織的な活動をしている少年のスポーツ・クラブで、日本スポーツ少年団に登録し、その認定を受けている。青少年の健全育成と地域スポーツの振興を目的に、日本体育協会が協会創立50周年記念事業の一つとして昭和37年(1962年)6月23日、オリンピックデーを期して創設した。日本スポーツ協会の内部機構に全国を代表する日本スポーツ少年団を、また都道府県、市町村のスポーツ(体育)協会にもそれぞれの地域を代表するスポーツ少年団を置き、育成に当たっている。
スポーツ推進委員	市町村におけるスポーツ推進のための実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言、事業の企画立案や連絡調整、地域住民や行政、スポーツ団体等の間を円滑に取り持つ等のコーディネーターとして、市町村教育委員会等が委嘱し、地域スポーツ推進の中核的な役割を担う者。スポーツ基本法(平成23年法律第78号)制定時に、従前の「体育指導員」から改称された。
スポーツツーリズム	プロスポーツの観戦者やスポーツイベントの参加者と開催地周辺の観光とを融合させ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果などを目指す取組。

スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定	県内4つのプロスポーツチーム運営会社[株式会社長野県民球団(信濃グランセローズ)、株式会社松本山雅(松本山雅フットボールクラブ)、株式会社長野パルセイロ・アスレチッククラブ(AC長野パルセイロ)、株式会社信州スポーツスピリット(信州ブレイブウォリアーズ)]と県、(公財)長野県スポーツ協会、(特非)長野県障がい者スポーツ協会の7者が平成24年(2012年)7月5日に締結した協定。各団体がスポーツ振興、青少年の健全育成、県民の健康増進、観光振興、その他地域の活性化に関することについて連携・協力し、スポーツを通じて長野県全体に元気を創出していくことを目的としている。
SWANプロジェクト	SWANプロジェクト Superb Winter Athlete Nagano プロジェクト。国のスポーツ基本計画及び長野県スポーツ推進計画に沿った競技力向上の視点に立ち、平成10年(1998年)開催の長野冬季オリンピックの遺産である人的・物的・環境資源を最大限に活用しながら、子どもたちに世界で活躍する競技者となる「夢とチャンス」を与えることを目的としたプロジェクト。JOC(日本オリンピック委員会)、JSC(日本スポーツ振興センター)等と連携を図りながら、世界に挑戦する競技者育成に必要なプログラムを提供し、スケート、スキー、カーリング、ボブスレー、リュージュ、スケルトン競技において、日本を代表し、世界で活躍する冬季オリンピックメダリストを見出し、育成することを目指す。平成21年(2009年)より1期生の育成を始める。
総合型地域スポーツクラブ	「誰でも」「いつでも」「世代をこえて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツ」を楽しむことのできる地域住民が主体的に運営する総合的なスポーツクラブのこと。
総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度	総合型地域スポーツクラブが、より公益性の高い「社会的な仕組み」として、永続的に充実した活動を行えるよう、国のスポーツ基本計画に基づき、日本スポーツ協会と都道府県体育・スポーツ協会が関係団体と連携し整備した制度。総合型地域スポーツクラブが地方自治体等とパートナーシップを構築し、公益的な事業体としての役割を果たしていくために、活動実態や運営実態、ガバナンス等についての要件を具備していると認められる総合型地域スポーツクラブを、登録クラブとして認定する。令和4年(2022年)4月1日から総合型地域スポーツクラブ全国協議会を母体として整備・運用されている。
夕行	
体力向上プラン	各学校が、体力テストの結果をもとに自校の児童生徒の体力の現状を分析し、より体力を高めていくために作成する学校独自の活動計画。
体力合計点	文部科学省が全国一律で行う「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において実施する実技種目の握力、50m走、ボール投げ、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学生は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択)、立ち幅とびの8種目を点数化して合計したもの。
体力テスト	体力の実態を測定する調査。握力、50m走、ボール投げ、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学生は持久走か20mシャトルランのどちらかを選択)、立ち幅とびの8種目を行い、筋力、筋パワー、柔軟性、敏捷性、全身持久力等の体力要因を測定する。
中間支援組織	総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の運用を通じて、総合型地域スポーツクラブの支援を担う都道府県体育・スポーツ協会のこと。
頭頸部外傷事故発生時の対応フローチャート	小・中・高等学校の学校教育下の活動において、児童・生徒が頭頸部や顔面に強い衝撃を受けた時の対応をまとめた一覧表。
トランスファー(種目転向)	ある運動で高めた能力をもとに、他の種目での可能性を引き出し、選手育成していくこと。 本県では希望する小学生を対象に、主に競技人口が少ない競技の体験会を通じて現在取り組んでいる競技のほか新たな競技に取り組む機会を提供している。

ナ行	
長野県アスリート就職支援事業	アスリートが長野県内企業へ就職し競技を継続するため、アスリートと企業をマッチングする事業。アスリートたちが安心して競技に取り組み、地域で活躍できる環境を整え、さらに引退後も引き続き指導者として地域に残り、技術や経験を地域に還元する好循環を創出していくことを目指す。
長野県競技力向上基本計画	第82回国民スポーツ大会での天皇杯・皇后杯の獲得を目指し、有望なジュニアの発掘、選手の育成・強化、高い指導力を持つ指導者の養成・確保、選手へのサポート体制の充実など、競技力向上のための具体的な取組をまとめた計画(平成31年(2019年)3月策定、令和3年(2021年)7月改定)。
長野県競技力向上対策本部	第82回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上と大会終了後も持続できる競技スポーツの振興を目指し、知事を本部長として県、市町村、関係団体等幅広い主体の参画を得て、総合的な対策を計画的かつ着実に推進するための組織(平成30年(2018年)6月設立)。
長野県高校生の冬山・春山における安全確保指針	高校生以下の生徒は、原則として、冬から春にかけて主に雪上で実施する登山活動は行わないこととするが、長野県高等学校体育連盟登山専門部および高体連登山専門部に加盟する高等学校山岳部や山岳同好会等が活動を行う場合に、安全を確保するために遵守事項をまとめたもの。
長野県高等学校の運動部活動方針	「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年(2018年)3月スポーツ庁)に則り、高等学校(特別支援学校高等部を含む。)段階の運動部活動を対象とし、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点に立ち、地域、学校、競技種目等に応じた多様な形で運動部活動が最適に実施されることを目指して策定した指針。平成31年(2019年)2月策定。
長野県スポーツコミッション	スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」人々を県内に呼び込み、官民が一体となり機動的にスポーツ大会、スポーツ合宿の誘致を推進することにより、地域地域経済の活性化を図ることを目的に平成28年(2016年)に設立された団体。
長野県中学生期のスポーツ活動指針	心身の成長過程にある中学生期にとってのスポーツ活動が、「スチューデント・ファースト」(学習者本位)の精神に基づく、適切で効果的な活動となることを目指して、平成26年(2014年)2月に策定された長野県独自の指針。スポーツ庁が平成30年(2018年)3月に示した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、平成31年(2019年)2月改定。
長野県版運動プログラム	子どもの運動習慣づくりを通して、体力・運動能力の向上を計るとともに、コミュニケーション能力等社会性の発達を促し、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送る基盤を培うことを目的に作成された幼児期から中学生期までの成長段階に応じた長野県オリジナルの運動プログラム。
ながのスポーツスタジアム	集団縄跳びやボールパスなど、休み時間にも手軽に実施可能な運動種目に小・中学生がクラス単位で挑戦し、県ホームページ上で同学年の仲間と記録を競い合う。クラスの仲間と関わり合いながら運動することを通して、体を動かす楽しさや記録向上の達成感を味わうとともに、運動をする習慣や望ましい人間関係を育む。
ニュースポーツ	年齢や性別、技術、体力、ハンディキャップの有無にかかわらず、誰もが手軽に楽しむことができる比較的新しいスポーツで、新しく我が国で考案されたり、諸外国から導入されたりしているスポーツの総称。マレットゴルフ、ゲートボール、ペタンク、インディアカ、カローリング、フロアホッケーなどがある。
ハ行	
パラウェーブNAGANO	長野県と(公財)日本財団パラスポーツサポートセンターとの連携協定に基づき、性別や年齢、障がいのあるなしを問わず、県民すべてを巻き込んだ新しいパラスポーツの波を起し、共生社会の実現を目指すプロジェクト。パラ学(県独自の体験型授業)、ボッチャ大会、パラウェーブ広場などを展開している。

フレイル	加齢とともに筋力や認知機能が低下し、生活機能障害・要介護状態などの危険性が高くなった状態。
ヤ行	
ゆる部活・ゆるスポ活動	競技志向の運動部活動やスポーツ活動ではなく、誰もが気軽に楽しめる活動を位置付けることにより、部活動に所属していない生徒や文化部に所属する生徒、運動に苦手意識がある生徒等の運動機会を確保することをねらいとしている。

第2次長野県スポーツ推進計画策定までの経過

年度	年月	経 過	
R3	R4.3.18	長野県スポーツ推進審議会①	「10年後の目指す姿」の検討
R4	R4.6.13	長野県スポーツ推進審議会②	「基本目標」と「施策の方向性」の検討
	R4.8.26	長野県スポーツ推進審議会③	「施策の展開」の検討
	R4.11.28	長野県スポーツ推進審議会④	計画原案の検討
	R5.1.18 ～2.16	県民意見公募 (パブリックコメント)	計画案について県民意見を公募
	R5.3.23	県教育委員会定例会	計画の決定

長野県スポーツ推進審議会委員名簿

(会長及び会長職務代理者を除き五十音順、敬称略)

○令和2年10月25日から令和4年10月24日まで(R4.8.26 長野県スポーツ推進審議会③まで)

職 名	氏 名	現 職 等
会 長	岩間 英明	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科教授
会長職務代理者	小林 京子	千曲アプリコットスポーツクラブ会長
委 員	上野 真奈美	一般社団法人 MAN 代表 ソチ五輪日本代表
//	奥原 明男	長野県車椅子バスケットボール協会会長 北京ほかパラリンピック日本代表
//	臥雲 義尚	長野県市長会(松本市長)
//	桑原 俊樹	長野県高等学校体育連盟会長(長野東高等学校長) ※R4.4.1 から
//	小林 武広	長野県高等学校体育連盟会長(長野東高等学校長) ※R4.3.31 まで
//	三溝 和子	長野県スポーツ推進委員協議会評議員 (女性委員会副委員長)
//	下村 征子	長野県市町村教育委員会連絡協議会代議員 (東御市教育長職務代理者)
//	田中 利治	一般公募委員

○令和4年10月25日から令和6年10月24日まで(R4.11.28 長野県スポーツ推進審議会④から)

職名	氏名	現職等
会長	岩間 英明	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科教授
会長職務代理者	小林 京子	千曲アプリコットスポーツクラブ会長
委員	上野 眞奈美	一般社団法人 MAN 代表 ソチ五輪日本代表
//	牛山 通高	一般公募委員
//	奥原 明男	長野県車椅子バスケットボール協会会長 北京ほかパラリンピック日本代表
//	桑原 俊樹	長野県高等学校体育連盟会長(長野東高等学校長)
//	小林 祐二	長野市文化スポーツ振興部長
//	三溝 和子	長野県スポーツ推進委員協議会評議員 (女性委員会副委員長)
//	原 勝人	一般公募委員
//	山下 美知子	長野県市町村教育委員会連絡協議会委員 (須坂市教育委員会教育委員)

第3次長野県スポーツ推進計画(案)へのパブリックコメントの結果について

スポーツ課

1 募集期間 令和5年1月18日(水)～2月16日(木)までの30日間

2 ご意見の状況

・県民ご意見提出者	2名	意見数	6件
・関係団体	4団体	意見数	19件
		計	25件

3 項目別意見数の内訳

項目	件数
計画全体	2
第1章 現状と課題	5
第2章 計画の基本的な考え方	0
第3章 施策の展開	
基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実	5
基本目標2 生涯を通じたスポーツ機会の充実	3
基本目標3 全国や世界で活躍する選手の育成	5
基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用	3
用語解説	2
合計	25

4 ご意見への対応(案)

別紙のとおり

第3次長野県スポーツ推進計画(案)に関する県民・団体の皆様からのご意見及び計画案へ反映の考え方

項目	該当ページ	ご意見の概要	計画案への反映の考え方
計画全体		「スポーツをする人＝健康でありたい、スポーツをしたい」からお金がかかるスポーツに変わってきている。施設の使用料、指導料、着る物のメーカー指定がある。(特にスポンサーの言いなしのようになってしまう。)目標としている率に関しては良いと思われる。	ご意見をいただきました点につきましては、今後の事業実施段階で参考させていただきたいと思います。
計画全体		私は障がいのある方とスポーツを通じて接する機会が多く、毎回「楽しんでくれているのか」とか「どんな思いなのだろう」と考えさせられる場面が多く、そんなことから障がい者スポーツ指導員の勉強をして資格をとり日々取り組んでいきます。障がいのある方のスポーツ振興は問題も多く特に意思疎通をうまくとることは私の課題です。その中で中学生の障がい者の保護者の方は大切な存在で、私は空き時間に世間話をしながら保護者の方からお子さんの反応・希望・悩みなどをくみ取ろうとしています。障がい者本人だけでなく保護者や家族の方々にも交流や勉強する機会を差し上げて、自分の子どもや家族に一番良い環境を見極めてもらうことが障がい者のスポーツ振興につながるかと考えます。障がい者だけでなくその保護者・家族ともに交流や親睦する機会を惜やして気軽に参加してもらおうと共に関心や目標を共有できる環境・場所の提供を希望します。	いただいたご意見につきましては、「P22 第3章 3.3 具体的な施策の展開 基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実」の「○障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進」中에서도記載しておりますが、事業実施段階でより着実なものとなるよう参考にさせていただきます。
第1章 現状と課題	P2	1.1「子どもの運動・スポーツ機会の充実」の現状と課題 核 (運動をする子どもとしない)子どもの二極化は、親の都合もあると思われる。核 家族化や共働きにより送迎ができない家庭が多い。	P21「第3章 3.3 具体的な施策の展開 基本目標1 子どもの運動・スポーツ機会の充実」3.3 子どもの運動・スポーツ環境の充実」の「○子どものスポーツ環境の整備」に記載のとおり、「全ての子どもに運動機会を提供できる環境を整える」ことを目指し、核家族化や共働き等の事情から生じる送迎の課題等にも対応し得るスポーツ環境・体制の整備に努めてまいります。
第1章 現状と課題	P5 P9	総論:障がい者スポーツの記述が少なく、各項目に沿った現状・課題に関するデータの掲載もないまま、「必要があります(P5、P9)」でまとめるのはいかがか？ ○障がいのある子どもとスポーツ環境の整備(共生社会の実現) 「障がいがある子どもとない子どもと一緒に運動する機会をより一層充実させるとともに、障がい者スポーツに対する理解の促進を図る必要があります」とあるが、この問題の現状と課題について、他の項目と同様に根拠となるデータを示した上で記述してほしい。 ○障がい者スポーツの参加機会の拡大と理解促進(共生社会の実現) 「共生社会づくりに取り組む必要があります」とまとめられているが、本項の柱である「生涯を通じたスポーツ機会の充実」のために、障がい者スポーツの参加機会の拡大とした理由(現状・課題)のデータや記述がまったくない。	ご指摘いただいたとおり、「1.1「子どもの運動・スポーツ機会の充実」の現状」及び「1.2「生涯を通じたスポーツ機会の充実」の現状と課題」に、障がい者スポーツについてのデータを追加させていただきます。 (P5に「障がい者スポーツ(パラスポーツ)に関する意識調査」の結果を追加) (P9に「長野県障がい者スポーツ大会 個人競技申込者数の推移」を追加)

項目	項目	該当ページ	ご意見の概要	計画案への反映の考え方
第1章 現状と課題	1.2「生涯を通じたスポーツ機 会の充実」の現状と課題	P6～ 9	スポーツに親しみのない人達は自分の時間を作ることができない。忙しさにかこつけて方向を見誤っていると思われる。	P24「第3章 3.3具体的な施策の展開 基本目標2.生涯を通じたスポーツ機 会の充実 1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進」の「ライフスタイル」に 応じた「スポーツ」の普及』に記載のとおり、「スポーツ」に関わる余暇時間が少な い県民にも、できるだけスポーツに興味や関心を持ってもらえらるような働きか け」を行っています。
第1章 現状と課題	1.2「生涯を通じたスポーツ機 会の充実」の現状と課題	P8	誰もが安全に利用できるスポーツ施設の整備として長野県立武道館があげられ ています。また武道振興の核としても武道館が普及の働きを進めていくともあり ます。先日武道館を初めて訪れた機会(パワエープロボット大会県大会)があり 本当にすばらしい施設に驚きました。訪れる人も明るい気分になることができる ような雰囲気。これからのスポーツ普及(特に障がい者スポーツ)に期待できる と感じました。それにしても飯田市からは佐久市は遠くせつかくの良い施設で あっても利用できる人や団体は限られてしまふのではないかと感じました。県立 武道館はできたばかりですが、新たに建設するのであれば県内の誰もが平等に 利用できる施設の建設を希望します。	ご意見をいただきました点につきましては、今後の事業実施段階で参考にごさせて いただきます。
第1章 現状と課題	1.3「全国や世界で活躍する選 手の育成」の現状と課題	P10	障がい者スポーツについての記述がない。 2028国スポの記述のみで、全障スポの記述は皆無。なぜ？	ご意見を踏まえ、P10「1.3「全国や世界で活躍する選手の育成」の現状と課題」 の「主な課題」に全国障がい者スポーツ大会について記述を追加させていただきました。
第3章 施策の展開	基本目標1 子どもの運動・ スポーツ機 会の充実	P18～	小・中学生の運動時間の活動時間が全般的に少なすぎ。その反面、全国大会が あり、全国一を目指す学校が出てきて先生の負担が増えるのは当たり前のこと。 交流大会に変えるべきと思う。	現在、公立中学校の部活動の地域クラブ活動への移行による教員の負担軽減の 取組を進めており、令和5年度から、中体連が主催する大会については、地域の クラブチームでの参加も可能となります。なお、中体連大会の趣旨や運営の在り 方等については、今後見直しをしていくものと承知しており、その動向を注視し てまいります。
第3章 施策の展開	基本目標1 子どもの運動・ スポーツ機 会の充実	P18～	スキー及び登山について、長野県ならではのスキー・登山文化を継承するために も学校体育行事で実施してほしい。 スキー人口減少による長野県内の観光事業者支援、またスキーインストラクター、 登山ガイドの雇用継続のためにもスキー・登山学校行事実施は重要かと思いま す。 また、スキー及び登山は、長野県における自然環境の豊かさを体験できる機会 でもあり、SDGsへの理解につながると思います。	学習指導要領上の「特別活動」において、健康安全・体育的行事が位置づけられて おり、本県では、県の特長を活かして、スキー教室や学校登山が実施されていま す。令和4年度の本県の小学校では、34.7%(123校)が登山を、90.7%(321 校)がスキー教室を言明しております。 学校の安全引率を行う教員を対象とした研修会等を行うなど、各学校の体育的 行事の安全かつ円滑な実施に繋がるよう支援することにも、関係団体と連携し、 県内小中学生がスキー・登山に親しむ機会の創出に取り組んでまいります。

第3章 施策の展開	項 目	該当 ページ	ご意見の概要	計画案への反映の考え方
第3章 施策の展開	基本目標1 子どもの運動・ スポーツ機会 の充実	P20	「個別の指導計画」交流及び共同学習」云々ではなく、例えば、以下のような記述が必要ではないか。 障がいのある児童生徒が、障がいの有無に関わらず、地域社会において、卒業後も生涯を通じて教育やスポーツ・文化活動等の様々な機会に親しみ、幸福で豊かな生活を営むことができるように、地域人財を活用し、地域における活動を充実させるとともに、特別支援学校のスポーツ・文化活動による交流を行い、生涯学習の基盤づくりに努めます。	ご意見の趣旨を踏まえ、「卒業後も地域社会において、生涯を通じてスポーツ等に親しめるよう、特別支援学校のスポーツ交流や、地域と連携した卒業後の豊かな生活につながる学習活動の充実を図ります。」という記述を追加しました。
第3章 施策の展開	基本目標1 子どもの運動・ スポーツ機会 の充実	P22	R3.3に障がい者支援課が策定した「第27回全国障害者スポーツ大会に向けた障がい者スポーツ行動推進計画」では、2025年からは県代表強化指定選手を指定することになっているが、ここに記載がないのはなぜか？ これに限らず、障がい者スポーツ行動指針計画で明記している項目については、スポーツ計画に反映させるべきではないか。	「第27回全国障害者スポーツ大会に向けた障がい者スポーツ行動推進計画」は、スポーツ推進計画に基づいた方向性や考え方を踏まえ、2028年の信州やまなみ全障スポに向けた、個別、具体的な内容を定めているため、全ての項目について本計画に反映されてはおりません。
第3章 施策の展開	基本目標1 子どもの運動・ スポーツ機会 の充実	P21	(学校部活動の)クラブ活動への移行により先生は楽になるが、スポーツクラブ、スポーツ少年団への負担が多くなる。指導者不足、施設の設備不足が挙げられるが、この辺の県の対応はどうするのか。 また、若い指導者では、生活が成り立たなくなることが目に見えている。指導者をどのように確保していくのか。	地域内の潜在指導者の掘り起こしやスポーツ団体等への協力依頼を行うなど、市町村とも連携しながら、指導者確保に取り組んでおります。 今後、企業や大字と連携した人材の開拓、指導者のマッチング支援、オンラインによる指導など、さらなる指導者確保の手段を検討するとともに、補助事業等を活用した体制整備、運営支援策等により、負担が一部に偏ることのない、持続可能なスポーツ環境の構築を目指してまいります。
第3章 施策の展開	基本目標2 生涯を通じた スポーツ機会 の充実	P26	・次のとおり下線部分を追加していただきたい。 「…総合型地域スポーツクラブの自立的な運営や質的充実を推進…」 ・(質問)「関係団体との連携」と記載されていますが、関係団体とは、具体的に、何ですか。(どのような団体ですか。)	ご意見を踏まえ、「地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営や質的充実を推進するため、関係団体と連携し中間支援組織を支援します。」という記述に修正しました。 なお、「関係団体」とは、市町村、長野県スポーツ協会、長野県スポーツ推進委員連絡協議会、競技団体等の、地域のスポーツ活動に関与する団体を想定しており
第3章 施策の展開	基本目標2 生涯を通じた スポーツ機会 の充実	P29	・「(新)総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の…」は、「(新)総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の…」と記載した方がいいと思います。	ご指摘のとおり、「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の…」という記述に修正しました。

第3章 施策の展開	項 目	該当 ページ	ご意見の概要	計画案への反映の考え方
第3章 施策の展開	<p>基本目標2 生涯を通じた スポーツ機会 の充実</p> <p>○長野県の特 徴を活かした スポーツの推 進</p>	P25	<p>山岳県である長野県には民間経営のマウンテンバイク(以下、MTB)コース(クローズドエリア)が複数存在する。また、MTB競技のオリンピックや全日本チャンピオンも複数在住している。</p> <p>一方で広く開かれたパブリックの走行ルート(所謂MTBトレイル)の活用に関してはほとんど進んでいない。</p> <p>山岳県の特徴を生かせるMTBに、県民が手軽に楽しめるようにパブリックのMTBトレイルネットワークの整備を検討いただきたい。海外ではMTBはスキー・スノーボードと同様に「するスポーツ」の代名詞であると同時に、「みるスポーツ」としても非常に人気である。</p>	<p>ご意見をいただいた点につきましては、地域の意向を踏まえつつ、今後の事業実施段階で参考にさせていただきます。</p>
第3章 施策の展開	<p>基本目標3 全国や世界で 活躍する選手 の育成</p> <p>○冬季競技の 強化</p>	P31	<p>オンシーズンに関する施策の他に、オフシーズンにおける強化も検討いただきたい。</p> <p>具体的にはスノーボード競技のオフシーズントレーニング施設としてスケートパークの整備を検討いただきたい。海外選手の多くはスケートパークによるオフシーズントレーニングを行っている。県内のスケートパークは数、設備の充実度ともに不足している。</p> <p>また、スキー競技においてはMTBとのクロストレーニングも有効であり、既に県内選手もトレーニングに取り入れている。MTB練習環境の充実も、冬季競技の強化にもつながるといえる。</p>	<p>冬季競技の強化に必要な施策については、関係する競技団体等の意見を踏まえつつ、施策の公益性等も考慮の上、引き続き研究してまいります。</p> <p>ご意見をいただきました点につきましては、今後の参考にさせていただきます。</p>
第3章 施策の展開	<p>基本目標3 全国や世界で 活躍する選手 の育成</p> <p>○2028年の 信州やまなみ 国スポ、全障ス ポに向けた競 技力向上対策</p>	P30	<p>施策の展開では、「○2028年の信州やまなみ国スポ、全障スポに向けた競技力向上対策」と画大会が併記になっているが、「新」の指導者養成特別対策は国スポだけが対象としか読めない。なぜ国スポだけで、全障スポに向けた指導者養成特別対策は行わないのか？</p>	<p>信州やまなみ全障スポの指導者養成については、今後の実施段階の中で、長野県障がい者スポーツ協会や関係者等の意見を聞きながら対策を進めてまいります。</p>
第3章 施策の展開	<p>基本目標3 全国や世界で 活躍する選手 の育成</p> <p>○障がい者ア スリートの養成</p>	P33	<p>障がい者アスリートに関しては、この1項目だけとなっているが、このように健常者として分けて書くべきなのか。</p> <p>2028国スポ、全障スポとしていることを踏まえ、第3次スポーツ計画では、健常者への施策と障がい者への施策を分けるのではなく、ひとつのまとめで記載することを基本とし、障がい者アスリートに限定した施策のみ単独でおこなすべきではないか？</p>	<p>ご指摘いただいたとおり、健常者への施策と障がい者ではできるだけまとめて記載することを基本としております。障がい者アスリートに関しては、限定した施策のみを列挙するよう整理しました。(関連19)</p>
第3章 施策の展開	<p>基本目標3 全国や世界で 活躍する選手 の育成</p> <p>○障がい者ア スリートの養成</p>	P33	<p>「・国内外の合宿の参加費や競技用具購入、医科学トレーニングに要する経費を助成」は、障がい者アスリートに限定した施策なのか？</p>	<p>ご指摘いただいた箇所については、障がい者アスリートに限った施策ではないため、本項目からは削除させていただきます。(関連18)</p>

第3章 施策の展開	項 目	該当 ページ	ご意見の概要	計画案への反映の考え方
基本目標3 全国や世界で活躍する選手 の育成	○障がい者ア スリートの養成	P33	「一般のスポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上ができる環境づくりを構築します」は、素晴らしいと思うが、「環境づくりを構築」のイメージがかわからない。具体的にどのようなものを構築するのか？	一般の競技団体の中に障がい者スポーツの担当者を設け、練習会等を通じ日常的に障がい者に技術指導する取組、障がい者スポーツの体験会や大会等を一般の競技団体が主催する取組などを推進し、一般の競技団体が率先して障がい者スポーツを支える環境を目指します。
基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用	○スポーツ大会・合宿等の誘致を通じた地域経済の活性化	P35	国際自転車競技連合(UCI)が主催するワールドカップ(年複数回開催)には5万人の観客が訪れることもある。MTB環境の充実が進み、世界的な大会が開催されるようになれば、多くの観客の誘客が見込まれる。また現地で「するスポーツ」であるMTBが同時に行える環境であれば、誘客を後押しできるだろう。	ご意見をいただいた点につきましては、地域の意向を踏まえつつ今後の事業実施段階で参考させていただきます。
基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用	1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化	P35	長野県は都市部(首都圏・中京圏)からのアクセスの良さと、施設(大学・社会人等の合宿)に人気があります。長野県は学生向け・合宿向け宿泊施設が他県より多くあり、地域活性化のためにも合宿需要は継続需要として観光機構で誘客強化しております。また合宿は若い年代で長野県を訪れるため将来のお客層、リピーターにもつながるため重要マーケットとして考えております。 特に夏季合宿はさわやかさ・涼しさのイメージがあり7月中旬から8月下旬までは集中しており、施設(体育館・グラウンド等)・宿泊施設手配できない状況にある。この期間においては自治体施設を合宿優先に利用できる仕組みを各自治体で構築してほしい。住民利用の高い時間帯を外し空き状況の中で合宿手配優先、手配できる期日・抽選日の前倒し等をお願いできればありがたい。 また夏の時期集中化から時期分散化シフトするためにも四季(春・夏・秋・冬)の良さをアピールする必要もある。 あと長野県の特徴は高地トレーニングにおいて他県より優位のため今後もアピール武器にしていきたいと思えます。	自治体施設の合宿利用については、施設を管理する市町村等の意向を踏まえつつ今後の事業実施段階で参考させていただきます。 また、通年でのスポーツ合宿利用を促進するため、長野県の四季の魅力を生かした誘致活動に取り組んでまいります。
基本目標4 スポーツの持つ力の多面的活用	○信州ならではのスポーツの魅力発信	P36	山岳スポーツとは具体的にどのようなものか記載すべきではないか。同時に山岳スポーツにはMTBも明示いただきたい。 世界各地にはMTBトレイルネットワークの整備により、それらを目的とした観光客が多数訪れている地域が多く存在する。上記環境整備によってもたらされる経済活動から新たな雇用や移住者、関係人口も創出されている。 MTBは長野県ならではの魅力あふれるスポーツになりうるため、MTBに関する環境整備を進めていただきたい。 また、スキーリゾート地においては年々減少しているスノーシーズンのスキー客を補う意味でも、グリーンシーズンにおける取組としてMTBを取り入れる施設も増加している。この動きを推進するための補助金等を検討いただきたい。	山岳スポーツとは、山岳を活かして行われるスポーツ全般を幅広く想定して記述しており、今後様々な取組が予想されることから、計画での具体的な例示は控えさせていただきますと考えておりますので、ご了承願います。 また、環境整備等についてご意見をいただいた点につきましては、地域の意向を踏まえつつ今後の事業実施段階で参考させていただきます。

項目		該当ページ	ご意見の概要	計画案への反映の考え方
用語解説	総合型地域スポーツクラブ	P39	<ul style="list-style-type: none"> ・同表の3行目以下は、次のとおり記載(追加)した方がいいと考える。「令和4年度から総合型地域スポーツクラブ全国協議会を母体とする登録・認証制度が整備・運用されている。」 	<p>ご指摘の点については、「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度」の用語解説で同様の趣旨を記述しているため、そちらの記述を、「令和4年(2022年)4月1日運用開始。」から「令和4年(2022年)4月1日から総合型地域スポーツクラブ全国協議会を母体として整備・運用されている。」に修正しました。</p>
用語解説	総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度	P39	<ul style="list-style-type: none"> ・同表の4行目以下は、次のとおり記載(変更)した方がいいと考える。「総合型地域スポーツクラブ全国協議会が定める登録基準(活動・運営実態、ガバナンス等)を具備している総合型クラブを、登録クラブとして認定する。令和4年(2022)年4月運用開始。」 	<p>ご意見を踏まえ、「総合型地域スポーツクラブが地方自治体等とパートナーシップを構築し、公益的な事業体としての役割を果たしていくために、活動実態や運営実態、ガバナンス等についての要件を基準としている。」という記述を「...ついでに要件を具備していると認められる総合型地域スポーツクラブを、登録クラブとして認定する。」という記述に修正しました。</p>